



平成26年度
新入社員「働くことの意識」調査
～調査結果の概要～

四国生産性本部

目 次

1. はじめに	P2
2. アンケート調査の概要	P3
3. 基礎データ	P4
4. 調査結果について	P5~P40
・要 約	P5~P6
・個別結果	P7~P40
5. 本件照会先	P41

1. はじめに

我が国は、グローバル競争の激化やIT・情報化の進展、少子高齢化問題など、様々な構造的な問題に直面しています。なかでも少子高齢化に伴う労働力人口の減少は、極めて憂慮すべき問題のひとつであり、女性活躍をはじめとするダイバーシティへの取り組みを積極的に推進していく必要があります。

また、依然として高水準にあるフリーターや入社3年以内の新卒者の離職率への対応など、若年層の自立と働く意味の自覚を促すことによって労働市場を活性化し、我が国経済の力強さを確かなものにしていくことも重要な課題であります。

こうした現状認識を踏まえ、当本部では「働く目的」や「生きがい」等も含めた若者の意識を調査し、その結果を今後の雇用や人材育成、ひいては各会員の生産性向上に役立てていただくことを目的として、本部会員の新入社員等を対象とした「働くことの意識」調査を平成5年以降、継続して実施しております。

このたび、平成19年度以来、7年ぶりに実施した調査結果がまとまりましたので、企業・団体等における各種施策にお役立ていただけましたら幸甚です。

要務多忙の折、本調査にご理解ご協力いただきました関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。

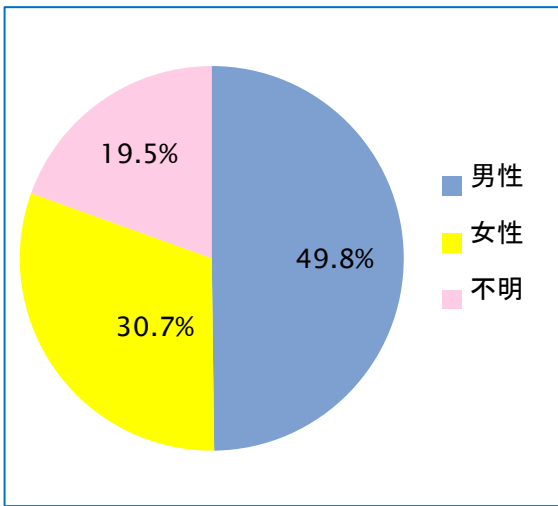
平成26年6月
四国生産性本部

2. アンケート調査の概要

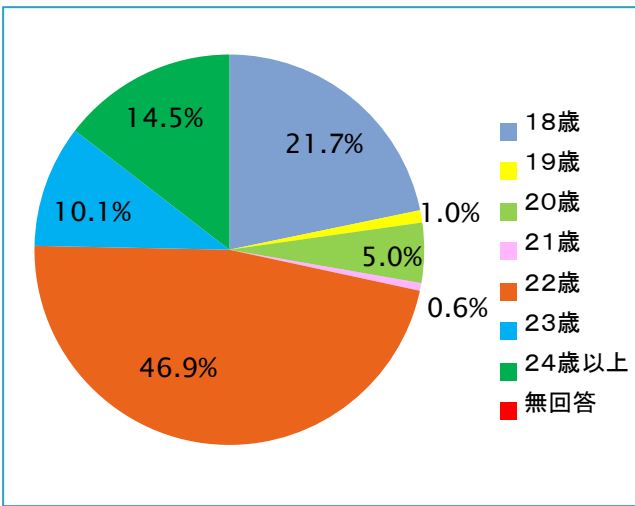
- 目的 当本部会員企業等の新入社員を対象に、「働くこと」に対する意識を中心に、「生きがい」等も含めた若年層の意識を調査し、その結果を雇用や人材育成、ひいては生産性向上に役立てていただくことを目的とする。
- 調査方法 アンケート調査
- 実施機関 四国生産性本部
- 調査対象 四国生産性本部会員を中心とした101社の新入社員(有効回答数1,568名)
 - ・当本部主催「フレッシュマン研修」に参加した企業の新入社員(310名)
 - ・上記以外の四国4県主要会員企業の新入社員(1,258名)(参考)平成19年度調査時:63社、1,084名
- 調査項目 (1)就職活動と志望動機(就職活動での利用情報、就職先選定重視項目等)
(2)働き方に関する考え方(働く目的、将来の希望役職、海外勤務、生きがい等)
(3)対人関係(上司との関係、私生活への干渉、職場での悩みごと相談相手等)
(4)ワーク・ライフ・バランス(残業、育児・介護休職、余暇の過ごし方等)
- 調査方法 調査票を「フレッシュマン研修」受講者およびアンケート協力依頼企業等の人事・研修担当部門長に提供して記入回答を依頼。
- 調査期間 平成26年3月下旬～4月下旬

3. 基礎データ

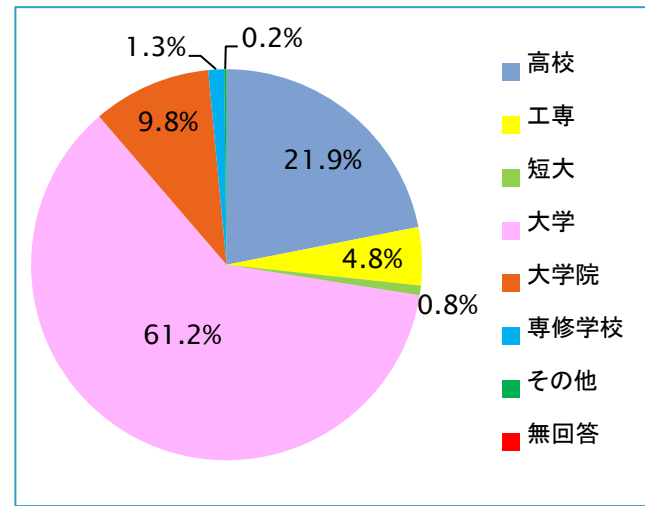
性別



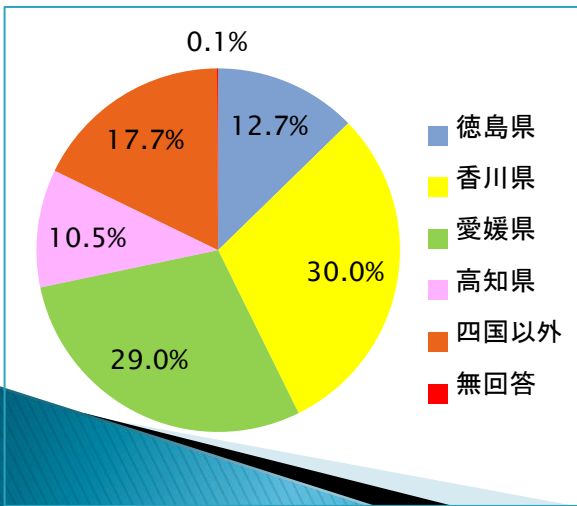
年齢別



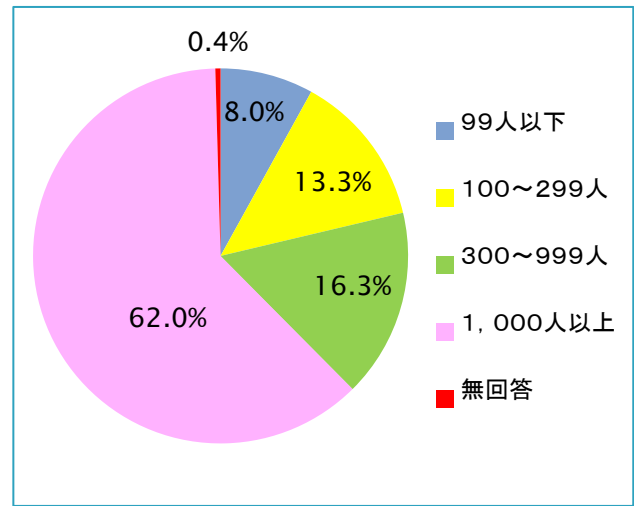
最終学歴



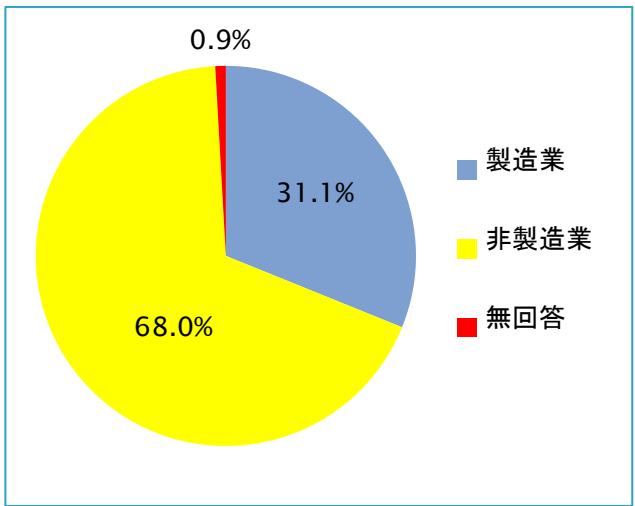
出身地別



従業員規模別



業種別



4. 調査結果について

<要 約>

- 入社のも機は、「出身地で働きたかった」が約6割を占めるなど、強い地元志向の中で会社の安定性や自己実現を求める姿勢が見受けられる。【P10】
- 働く目的については、「経済的に豊かな生活を送りたい(7割)」を中心に、「楽しい生活をしたい(6割強)」、「社会のために役に立ちたい(約5割)」の割合が高く、経済的に豊かで幸せな生活の実現と社会(地域)への貢献を重視した考え方が強い。【P11】
- 職場で志向するタイプは、「責任感を持ってコツコツ確実に実施するタイプ」が約3割と高く、近年、増加傾向にある。また、その傾向は男性に比べて女性の方が高い。【P13】
- 将来の希望役職については、前回調査から「専門職(スペシャリスト)」の割合が減少し、「分からないが」増加している。また、男性は、社長以下、経営幹部を目指す人が多いのに対して、女性は「専門職(スペシャリスト)」を目指す人(と「役職に就きたくない」)が多く、昇進に対する考え方に男女間の違いがみられる。【P19】
- グローバル化への対応が重視される中、海外勤務を希望する人は全体の3割に留まっている。また、海外勤務を希望する者の理由は、「自己の視野を拡げたい」が約5割と最も多い。【P21】
- 同じ会社で「定年まで働きたい」と考える人は全体の約4割に留まり、過半数の人は今後の状況次第で「転職・起業」を視野に入れている。【P22】

4. 調査結果について

- 職場での生きがいとしては、「自分の仕事を達成したとき(約5割)」を筆頭に、自分に割り当てられた業務に対する自信と誇りを自覚し、積極性が芽生えたときにやりがいや喜びを感じる傾向がうかがえる。【P24】
- 上司との関係については、「仕事を離れた付き合い」と「分からない」の割合がそれぞれ約4割と同じであり、仕事と私生活は別という回答が多い一方で、職場での上司との付き合い方を模索している様子がうかがえる。【P27】
- 育児・介護休業については、前回調査に比べて「男性が(も)とるべきだ」が21ポイント増加するなど、男女共に育児・介護への男性参加に対する意識変化がうかがえる。【P34】
- ボランティア活動については、「経験あり・今後も行いたい」が5割を超えており、ボランティア活動への積極的な姿勢がうかがえる。【P36】
- 結婚したい年齢については、「25～26歳」と「27～28歳」を合わせた割合が全体の6割を占め、20代のうちに家庭生活の基盤を固めたいと考えている新入社員が大半を占めている。なお、将来、結婚した場合、半数程度が共働きを前提としている。【P37～P38】
- 新しい職場生活に関する不安として、「仕事がうまくやれるだろうか」が5割強と最も多く、次いで職場での人間関係(上司・同僚)に不安を感じるが約3割強となっており、これらの悩み事の相談の相手は、「身近な先輩や同僚」が約4割と最も多くなっている。【P29、P40】

就職活動で訪問した企業数

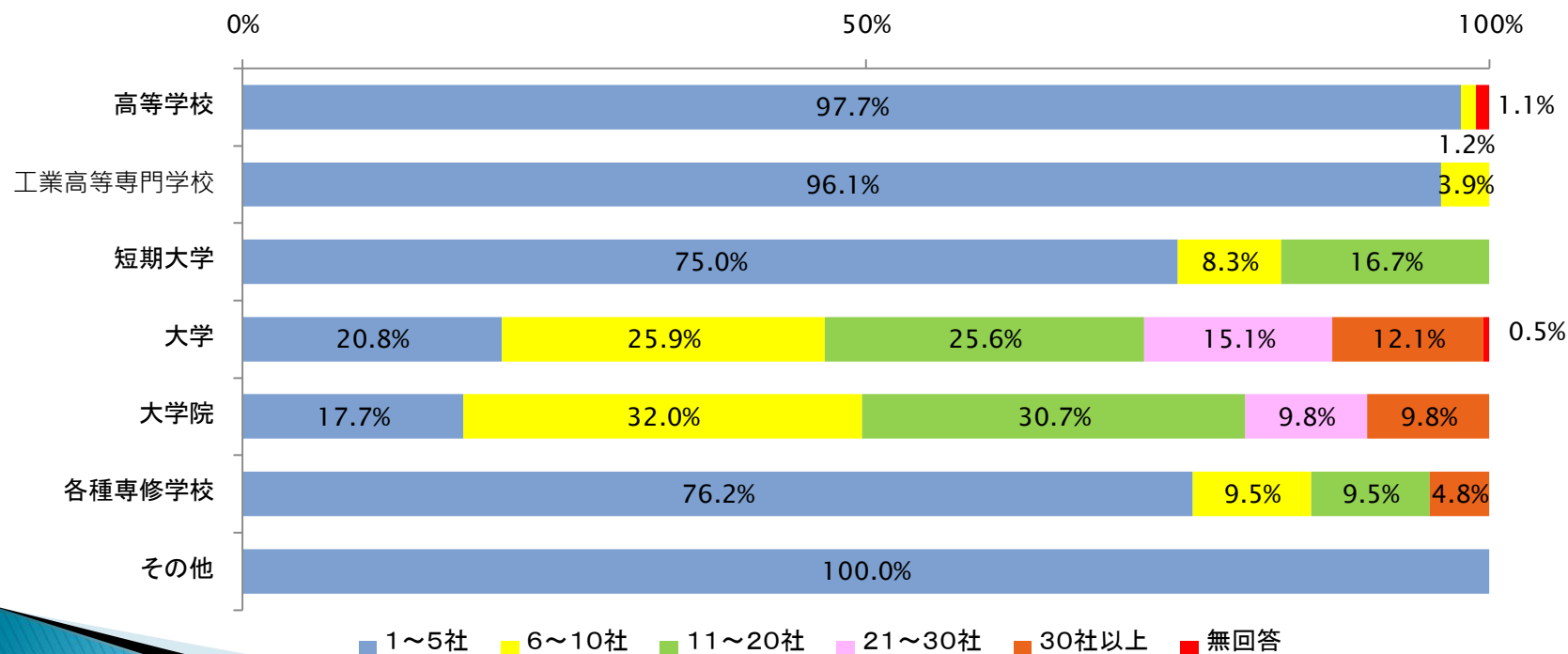
【概観】

Q. あなたが就職活動で訪問した企業数。(1つだけお選び下さい)

最終学歴別にみた場合、「訪問企業数」は学校推薦を原則としている高等学校卒と工業高等専門学校卒の9割強、短期大学卒の7割強が「1社～5社」となるなど、就職先を絞り込んだ活動をしているのに対して、大学卒と大学院卒は、「6社～10社」を中心に複数の企業を訪問している。

なかでも、大学の3割弱、大学院の2割が20社以上を訪問するなど、積極的な就職活動を展開している。

(図1)就職活動で訪問した企業数(全体)



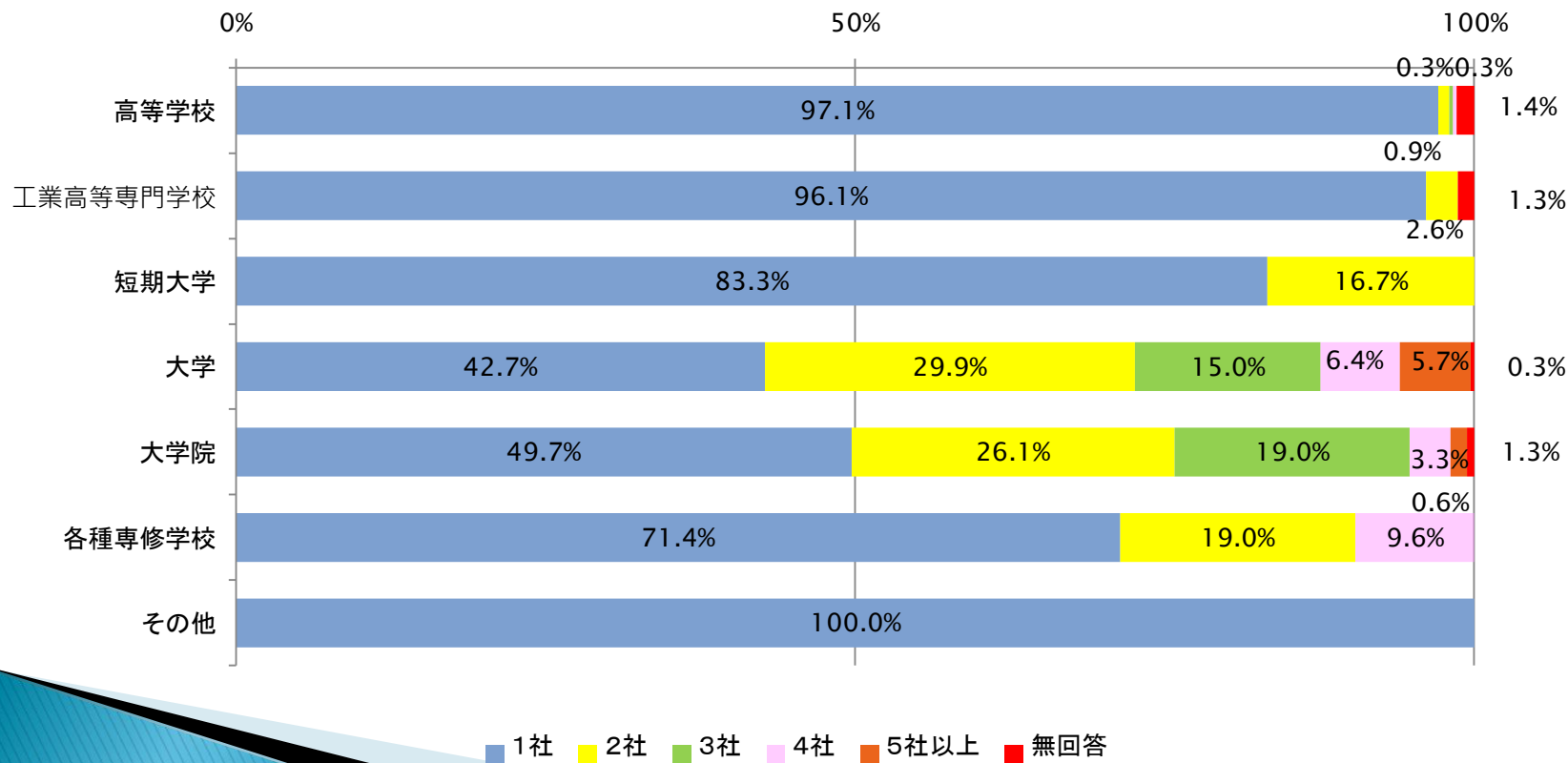
内定企業数

【概観】

Q. 就職活動にあたり、内定が出た企業数。(1つだけお選び下さい)

最終学歴別にみた場合、高等学校卒と工業高等専門学校卒が9割強、短期大学卒の8割強が1社から内定を得ており、就職先を絞り込んだ活動とリンクしているのに対して、大学卒と大学院卒は複数の企業を訪問しているものの、1社を中心に、2社までが全体の7割強を占めている。

(図2)就職活動で内定を得た企業数(全体)



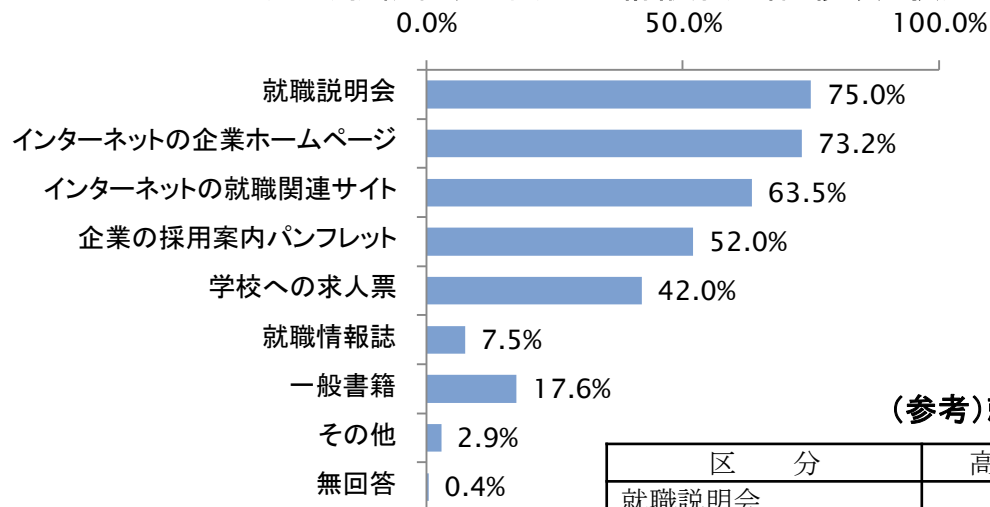
就職活動で利用した情報源

【概観】

Q. 就職活動にあたり、あなたが利用した情報源。(全てお選び下さい)

利用情報について最終学歴別にみた場合、高等学校と工業高等専門学校は「学校への求人票」が中心であり、短期大学や大学、大学院生は企業就職説明会や企業のホームページ、就職関連サイト閲覧が7割以上と高く、インターネット情報の利用が高い。

(図3) 就職活動で利用した情報源(全体:複数選択)



(参考) 就職活動で利用した情報源(最終学歴別)

区分	高校	工専	短大	大学	大学院	専修学校
就職説明会	21.9%	60.5%	83.3%	92.7%	94.1%	38.1%
企業ホームページ	49.0%	63.2%	91.7%	80.3%	88.9%	47.6%
就職関連サイト	9.6%	25.0%	75.0%	83.2%	83.0%	38.1%
採用案内パンフレット	22.4%	43.4%	41.7%	61.5%	65.4%	33.3%
学校への求人票	91.0%	89.5%	75.0%	21.6%	33.3%	42.9%
就職情報誌	0.9%	1.3%	0.0%	10.0%	10.5%	4.8%
一般書籍	1.2%	5.3%	8.3%	21.5%	39.9%	0.0%
その他	3.2%	0.0%	0.0%	2.8%	1.3%	23.8%
未回答	0.9%	1.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%

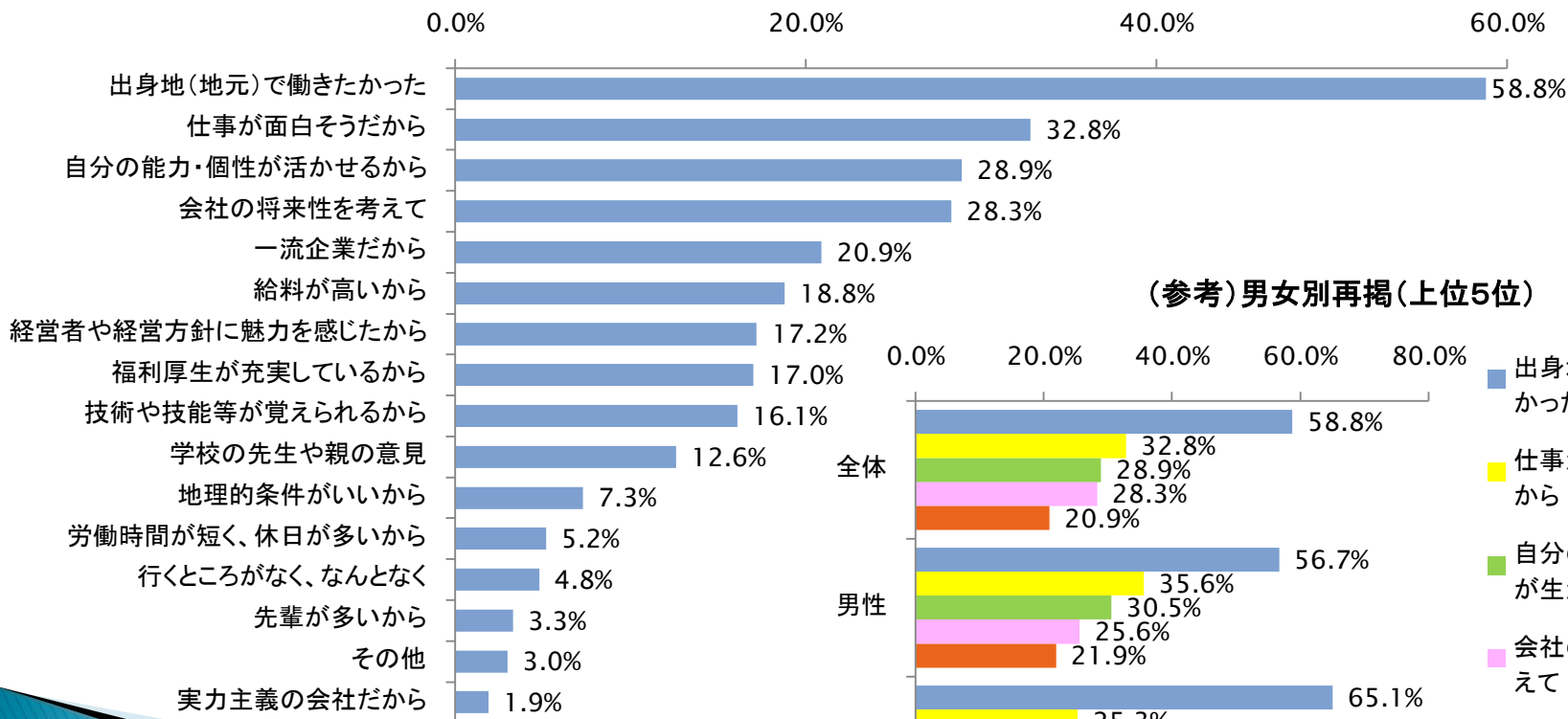
入社 の 動機 (就職先選定重視項目)

【概観】

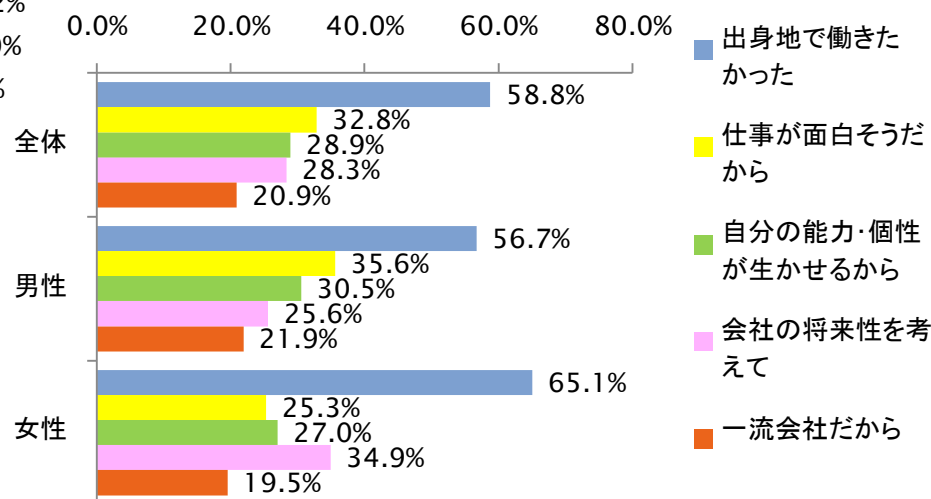
Q. 現在の就職先を選ぶ際に、どのような点を重視しましたか。(上位3つまでお選び下さい)

入社 の 動機 (就職先を選ぶ際に重視した事項) は、「出身地 (地元) で働きたかった」が約6割を占めるなど、強い地元志向の中で、会社の安定性や自己実現を求める姿勢がうかがえる。

(図4) 就職先選定理由 (全体: 複数選択)



(参考) 男女別再掲 (上位5位)



働く目的

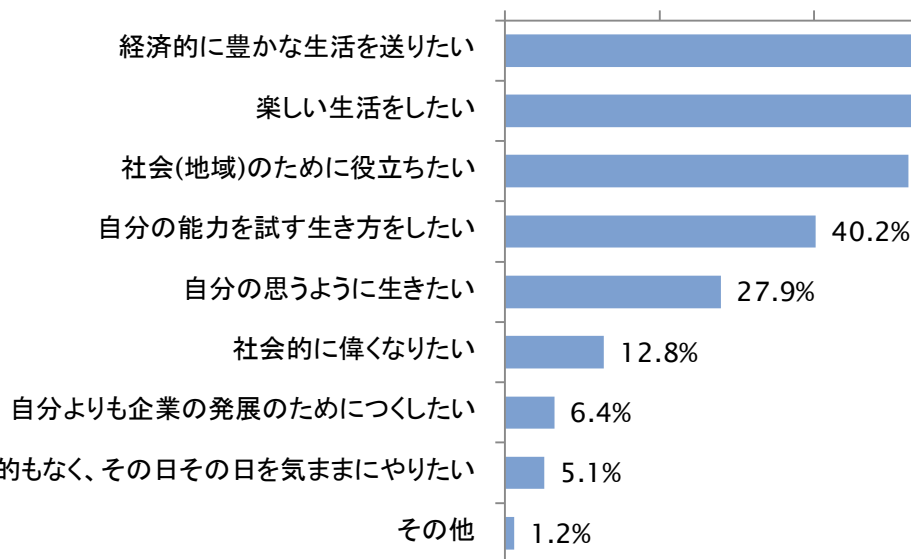
【概観】

Q. あなたが働く目的は何ですか。(上位3つまでお選び下さい)

働く目的については、「経済的に豊かな生活を送りたい(7割)」を中心に、「楽しい生活をしたい(6割強)」、「社会(地域)のために役に立ちたい(約5割)」の割合が高く、経済的に豊かで幸せな生活の実現と社会(地域)への貢献を重視した考え方が強い。

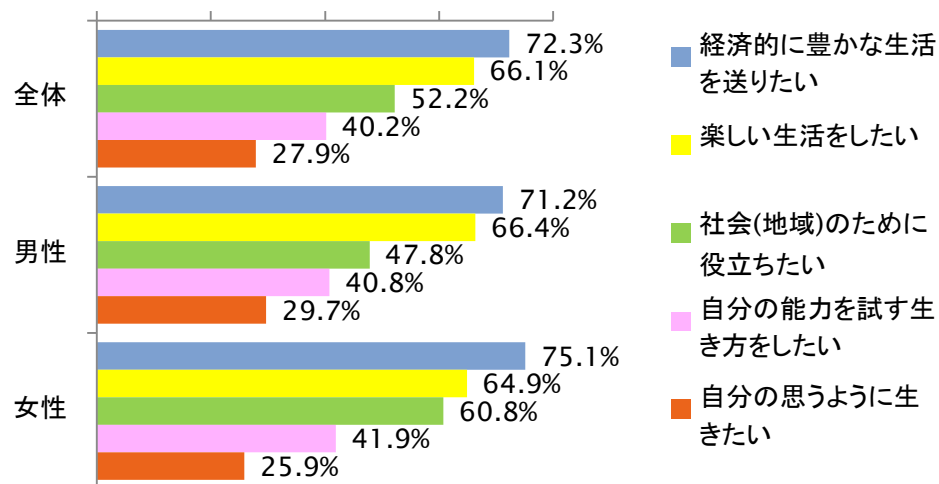
(図5)「働く目的」に対する意識(全体:複数選択)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%



(参考)男女別再掲(上位5位)

0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0%

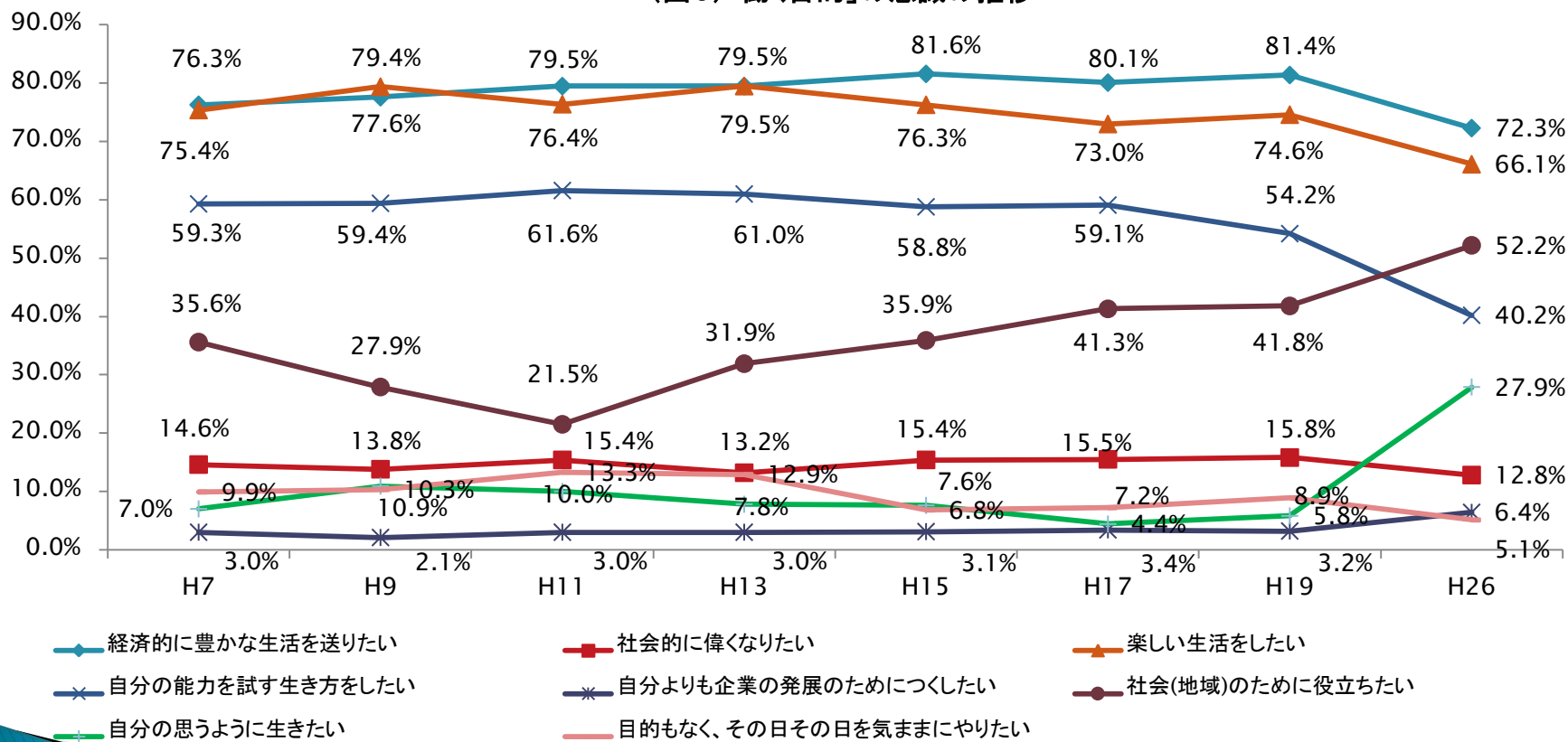


【参考】働く目的

【概観】

「働く目的」について経年変化でみた場合、今回は「企業の発展に尽くしたい」、「社会(地域)のために役に立ちたい」、「自分の思うように生きたい」の割合が多くなっているが、なかでも「自分の思うとおりに生きたい」の割合が前回調査の約5倍近くに増加している。

(図6)「働く目的」の意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

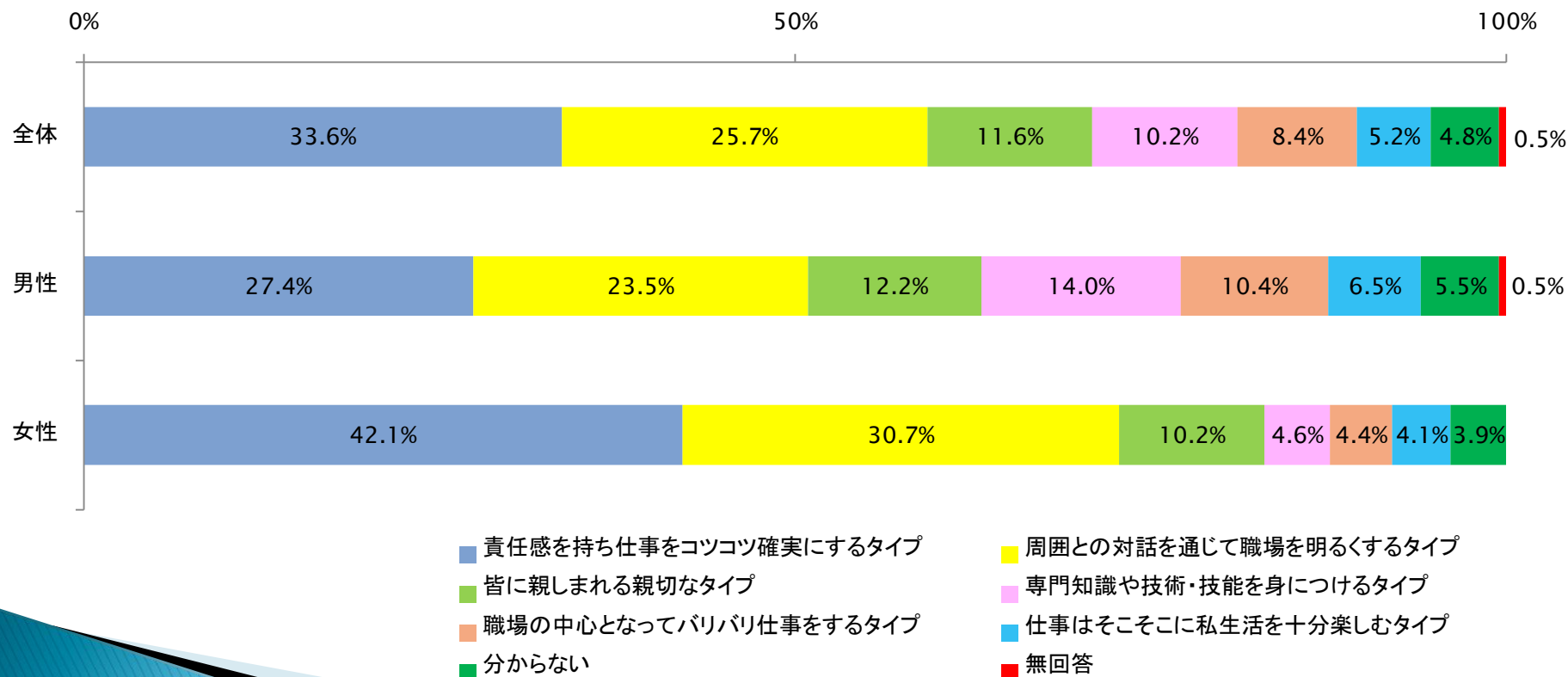
職場で志向するタイプ

【概観】

Q. あなたは、職場でどのようなタイプを志向しますか。(1つだけお選び下さい)

「職場で指向するタイプ」は、「責任感を持ってコツコツ確実にするタイプ(33.6%)」と「周囲とのコミュニケーションをとり、職場を明るくするタイプ(25.7%)」が多く、この2項目で約6割を占めている。

(図7)「職場で志向するタイプ」に対する意識(全体)

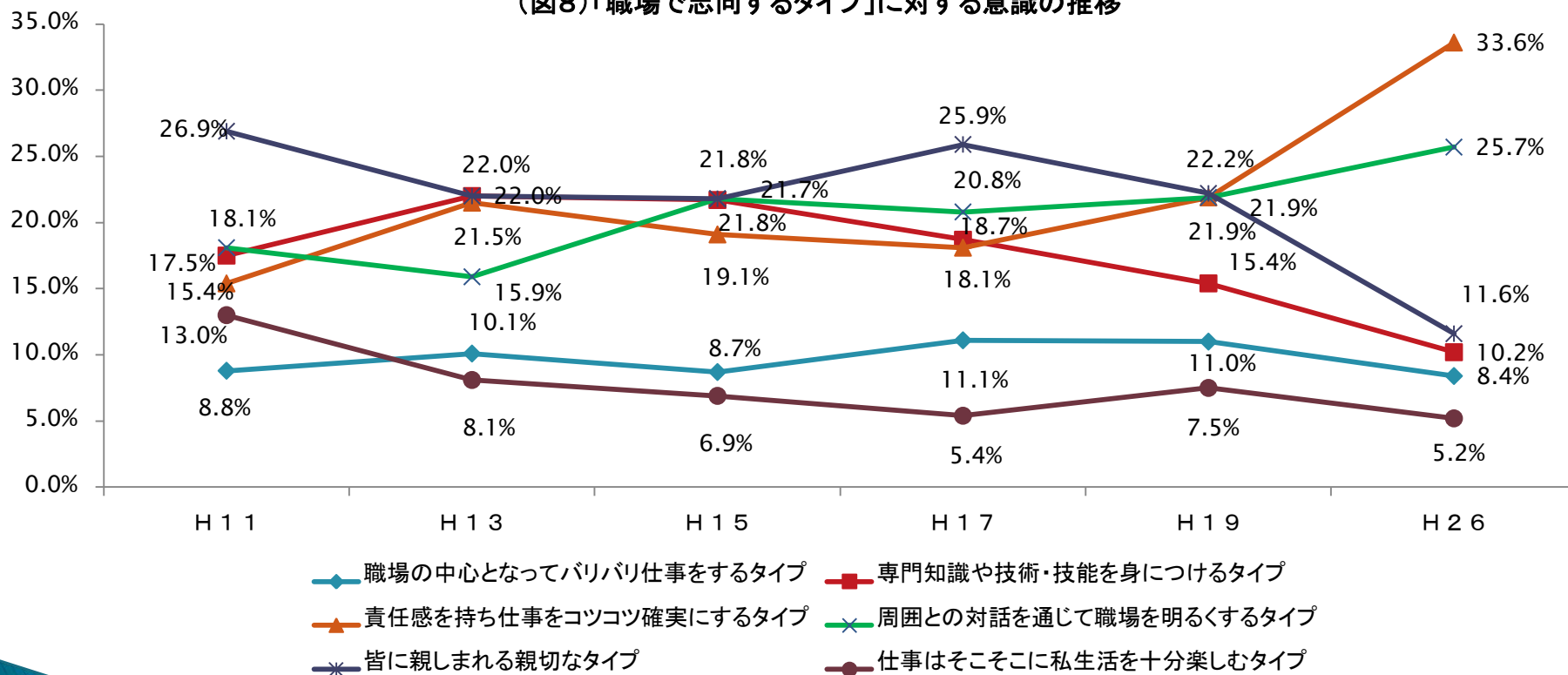


【参考】職場で志向するタイプ

【概観】

「職場で志向するタイプ」を経年変化でみた場合、平成17年度調査以降、「責任感を持ってコツコツ確実にするタイプ」と「周囲とのコミュニケーションをとり、職場を明るくするタイプ」がそれぞれ増加しているが、それ以外は減少傾向にある。

(図8)「職場で志向するタイプ」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

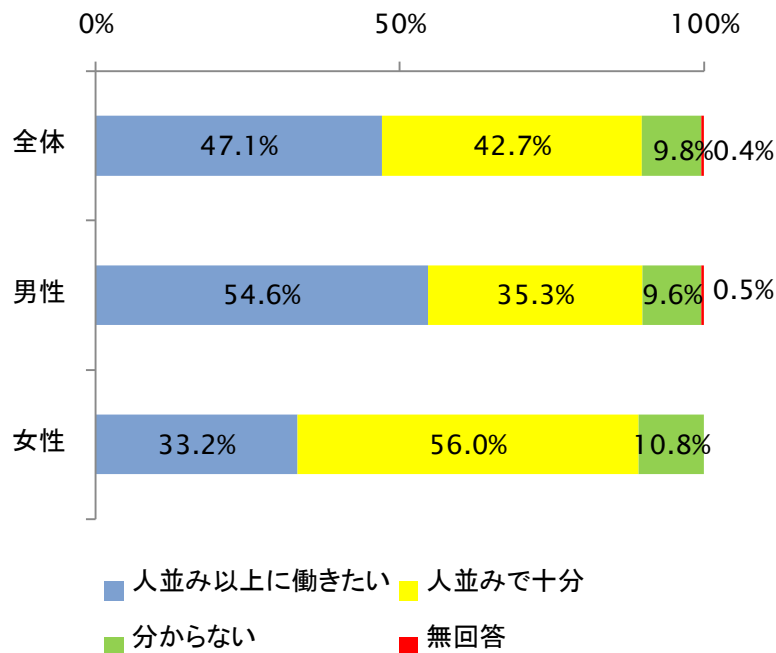
人並み以上に働きたいか

【概観】

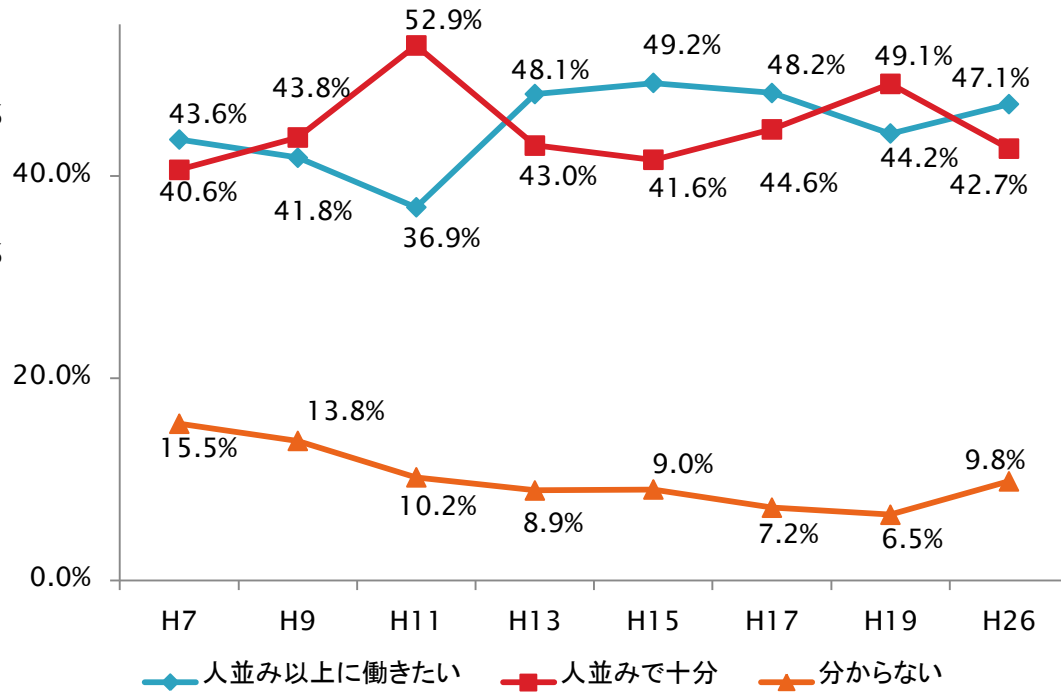
Q. あなたは、人並み以上に働きたいと思いますか。(1つだけお選び下さい)

「人並み以上に働きたい」と「人並みで十分」の割合は、5ポイント程度の差はあるものの、ほぼ同じであり、経年変化でみた場合も、その割合は拮抗した状況で推移している。また、男性に比べて、女性は「人並み以上に働きたい」の割合が低くなっている。

(図9)「人並み以上に働きたい」意識(全体)



(図10)「人並み以上に働きたい」意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

希望する職場

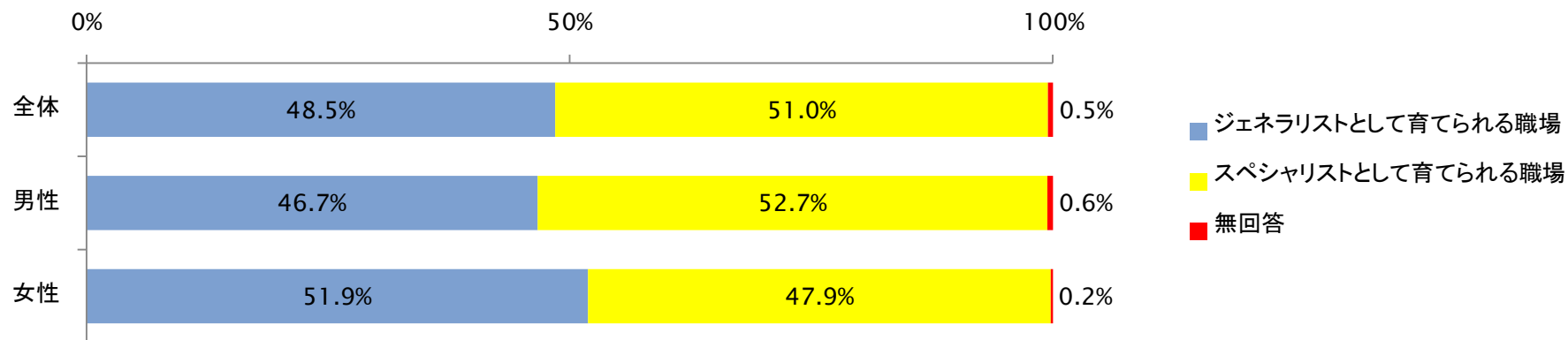
【概観】

Q. あなたは、どのような職場で働きたいと思いますか。(1つだけお選び下さい)

自身の将来とキャリア形成を念頭に置いた上で希望する職場は、「スペシャリストとして育てられる職場」と「ジェネラリストとして育てられる職場」がほぼ同じ割合である。

なお、男女別でもこの傾向は基本的に同じであるが、最終学歴別にみた場合、大学・大学院は「ジェネラリストとして育てられる職場」の割合が高いのに対して、それ以外は「スペシャリストとして育てられる職場」が高くなっている。

(図11)「希望する職場」に対する意識(全体)



(表1)将来とキャリア形成を考慮した希望の職場(最終学歴別)

区分	高校	工専	短大	大学	大学院	専修校	その他
ジェネラリストとして育てられる職場	32.4%	35.5%	25.0%	55.3%	50.3%	42.9%	66.6%
スペシャリストとして育てられる職場	66.5%	64.5%	75.0%	44.2%	49.7%	57.1%	33.3%
無回答	1.1%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%

(注)四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合がある。

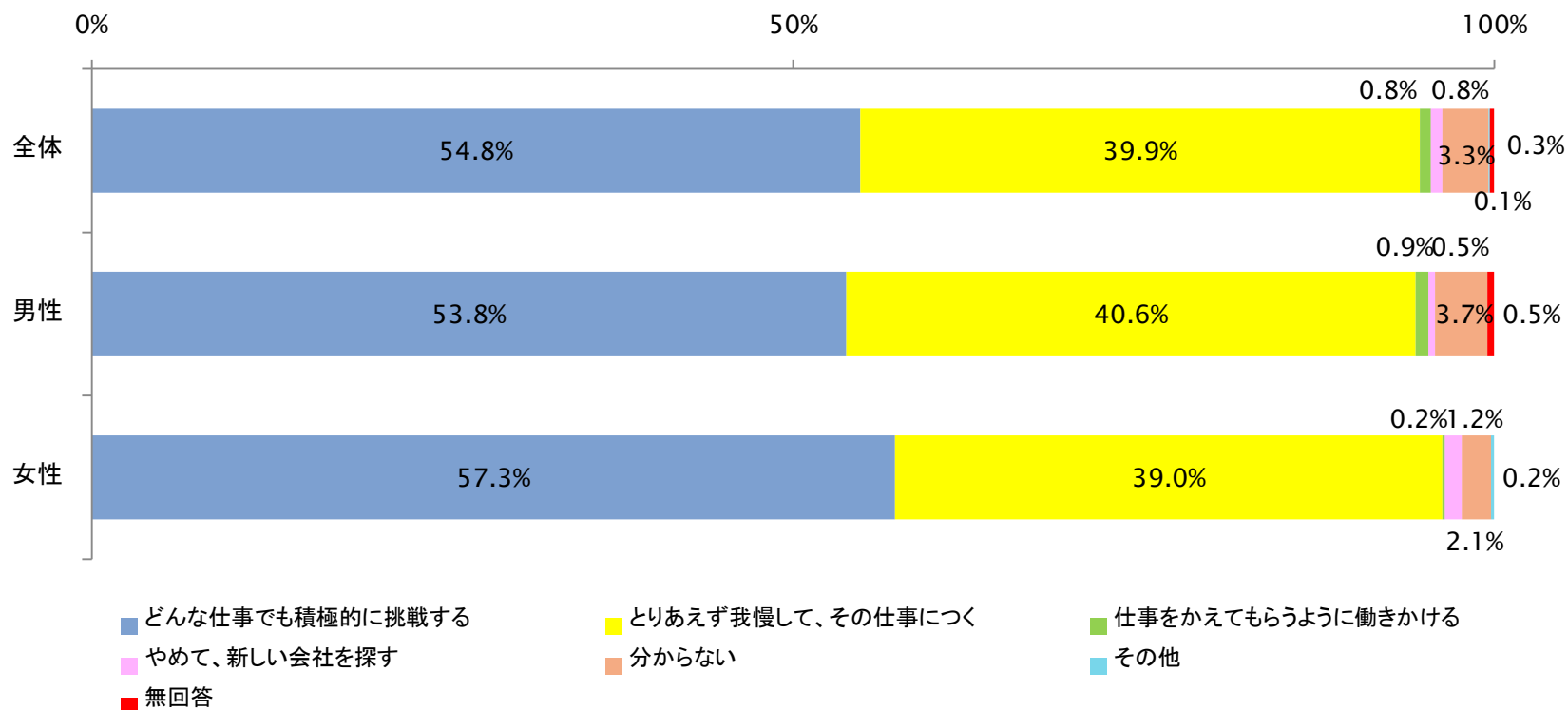
仕事への取り組み

【概観】

Q. 職場で希望する仕事に就けなかった場合、あなたはどのようにしますか。(1つだけお選び下さい)

「どのような仕事でも積極的に挑戦する」が5割強、「とりあえず我慢して、その仕事につく」が約4割あり、前向きな姿勢がうかがえる。

(図12)「仕事への取り組み」に対する意識(全体)

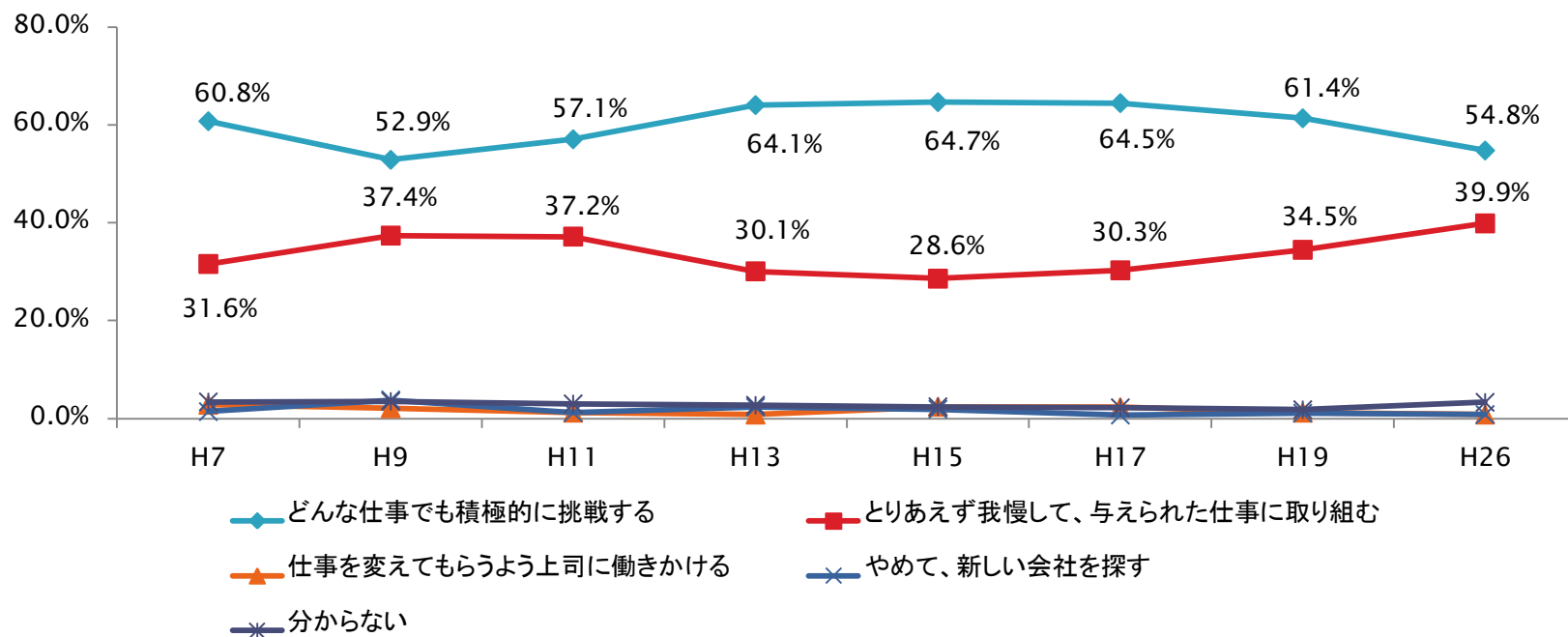


【参考】仕事への取り組み

【概観】

「仕事への取り組み」を経年変化でみた場合、「どのような仕事でも積極的に挑戦する」と「とりあえず我慢して、その仕事につく」の2つの考え方が有力である。しかしながら、平成13年度調査で30ポイント強の開きがあった2つの考え方は、それ以降、徐々に差がなくなりつつある。

(図13)「仕事への取り組み」に対する意識の推移



(注)未回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

将来の希望役職

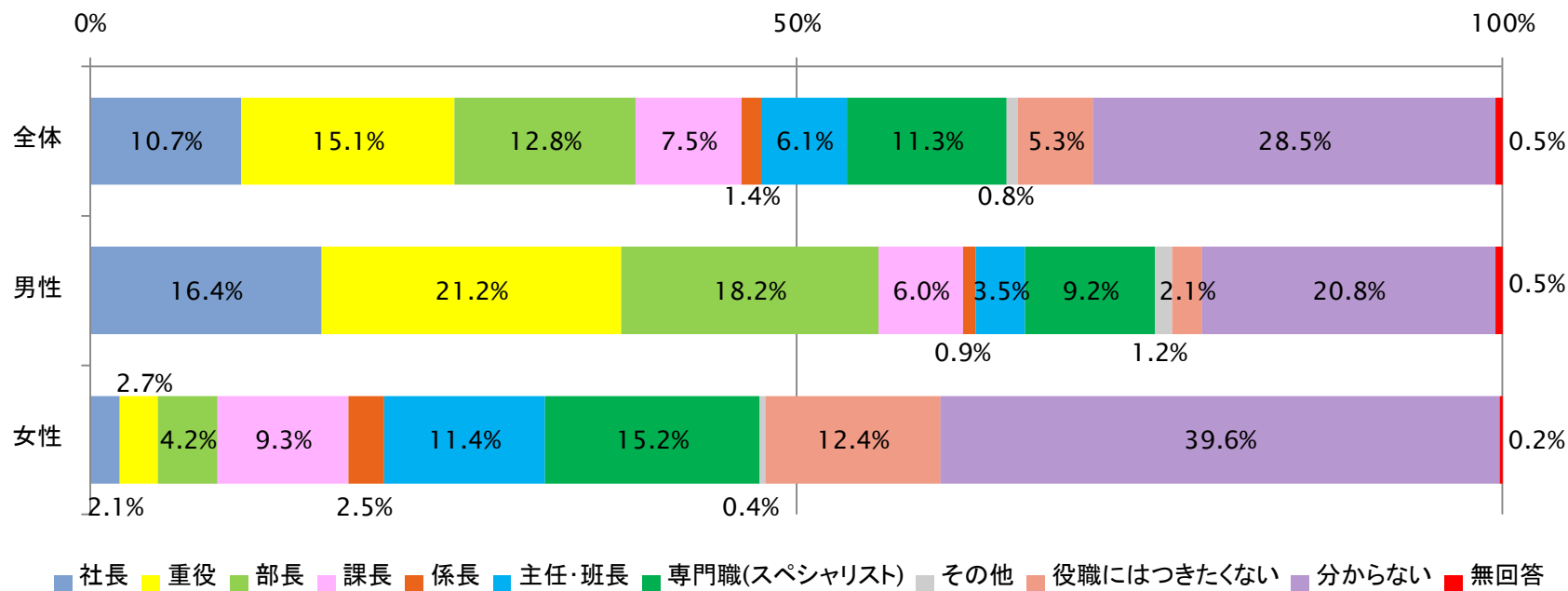
【概観】

Q. あなたは、どの役職まで昇進したいと思いますか。(1つだけお選び下さい)

今回の調査では、「分からない」と回答した者が多く、将来目指す目標を設定しきれていないが、具体的な回答があったものでは、全体的に「重役(経営層)」、「部長」、「専門職」、「社長」を目指す人が多い。

一方、性別でみた場合、男性は社長以下、経営幹部を目指す人が多いのに対して、女性は「専門職(スペシャリスト)」と「役職にはつきたくない」が多く、昇進に対する考え方に男女の相違がみられる。

(図14)「昇進したい役職」に対する意識(全体)

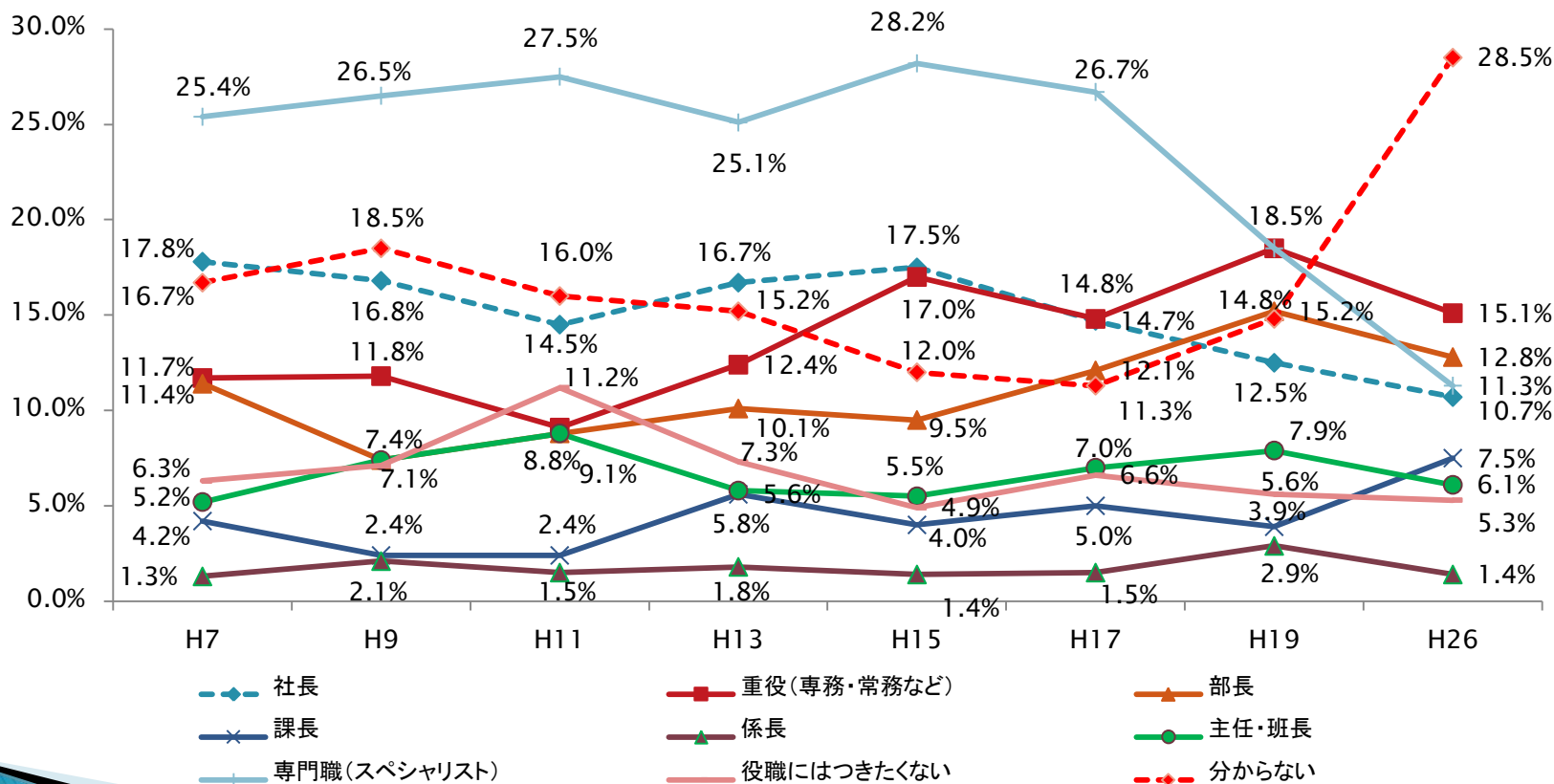


【参考】将来の希望役職

【概観】

将来の希望役職を経年変化でみた場合、昇進目標に掲げる割合はそれぞれ一進一退で推移しているが、調査開始当初から高い割合のあった「専門職(スペシャリスト)」の割合が、近年、急激に減少しているのに対して、今回調査では「分からない」が13ポイント上昇している。

(図15)「昇進したい役職」に対する意識の推移



(注) 未回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

海外勤務の希望

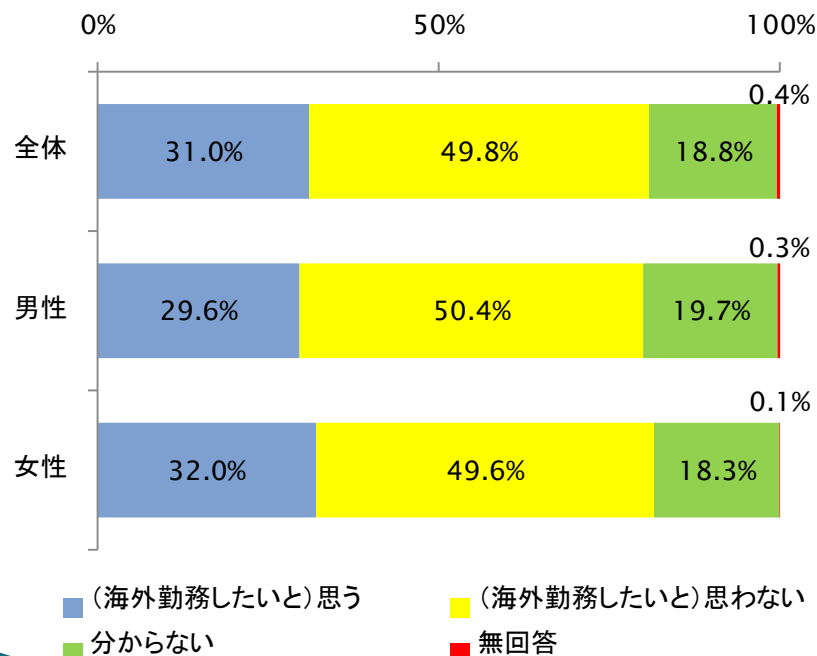
【概観】

Q. 現在の就職先で、海外勤務の機会があれば応じますか。(1つだけお選び下さい)

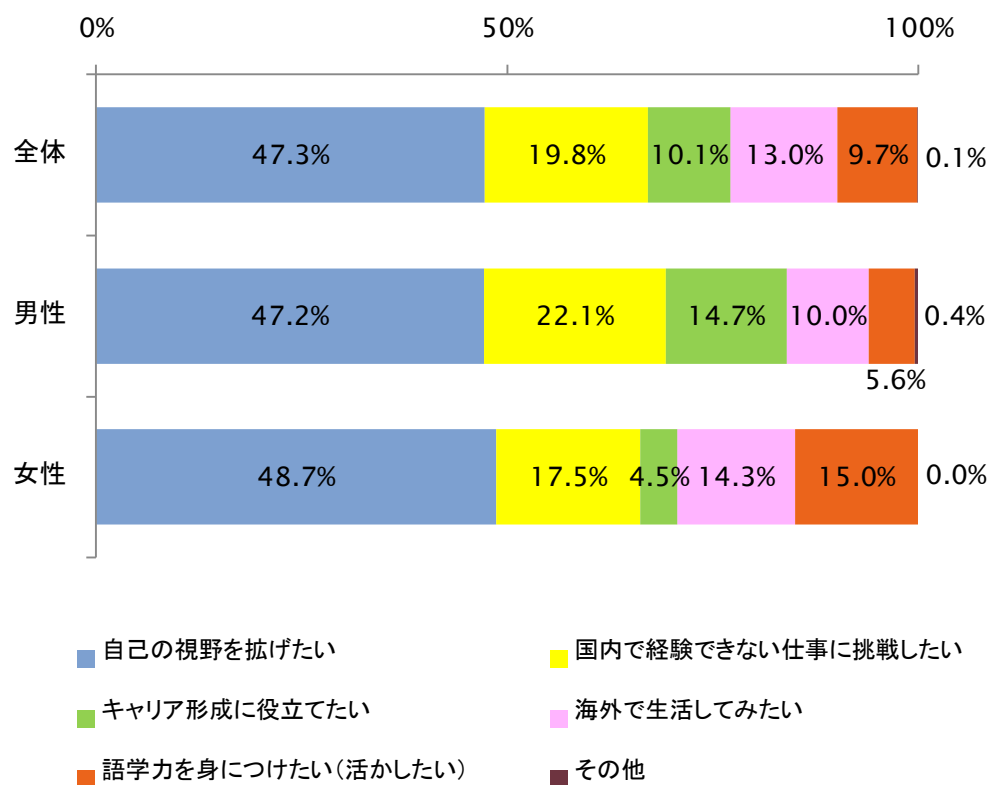
グローバル化への対応が、企業経営の重要課題のひとつになっているが、「海外勤務をしたい」と回答した割合は全体の約3割に留まっており、性別比較でも同じ傾向が見受けられる。

また、海外勤務を希望する者の理由は、全体では「自己の視野を拡げたい」が47.3%と最も高く、性別比較でもその傾向は同じである。

(図16) 海外勤務の希望(全体)



(図17) 海外勤務を希望する者の理由(該当者のみ)



会社への帰属意識

【概観】

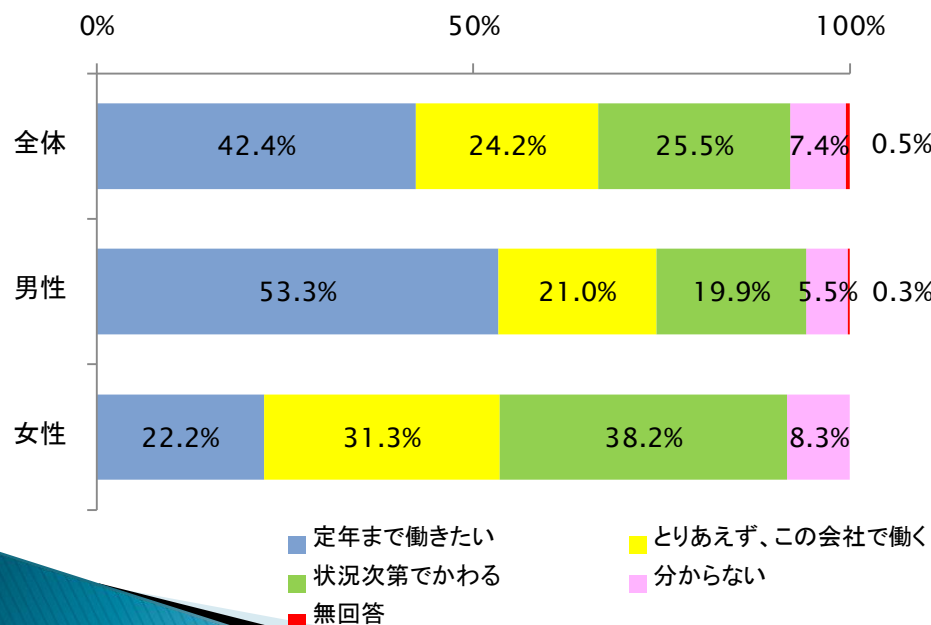
Q. あなたは、現在の会社(団体)ですずっと働きたいと思えますか。(1つだけお選び下さい)

「定年まで働きたい」と回答した割合は全体の約4割程度であり、男性の5割に比べて女性は2割程度であるほか、「状況次第でかわる」と回答した割合が4割弱と高いなど、就業に対する意識が男性と大きく異なっている。

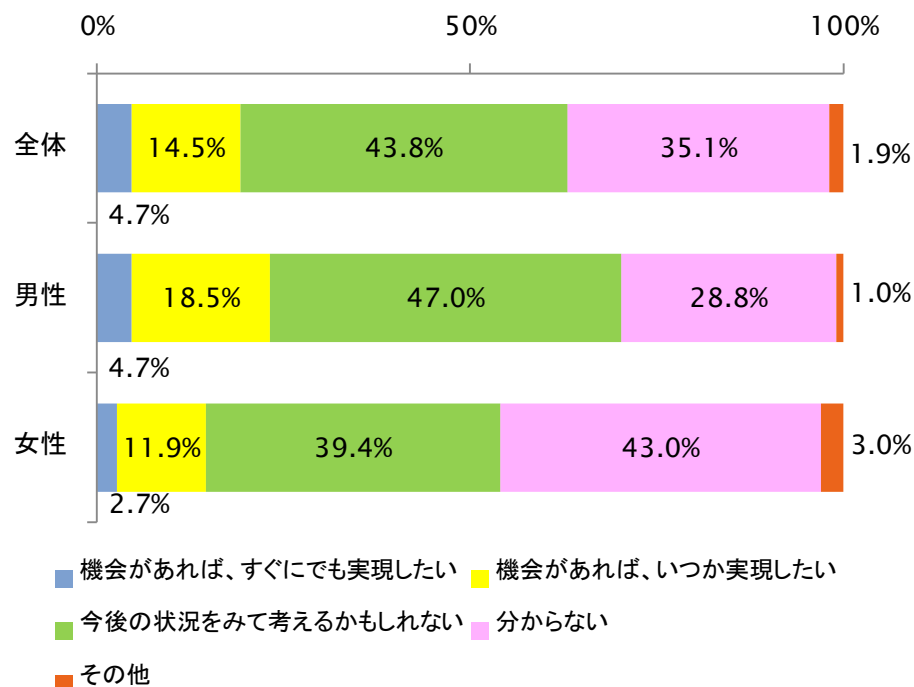
Q. 転職や起業について、どのようにお考えですか。(1つだけお選び下さい)

「とりあえず、現在の会社で働く」と「状況次第でかわる」と回答した者のうち、その多くは転職や起業について流動的であり、また、「すぐに実現したい」と考えている者もごく一部に留まっている。

(図18)会社への帰属意識(全体)



(図19)転職や起業の考え方(該当者のみ)

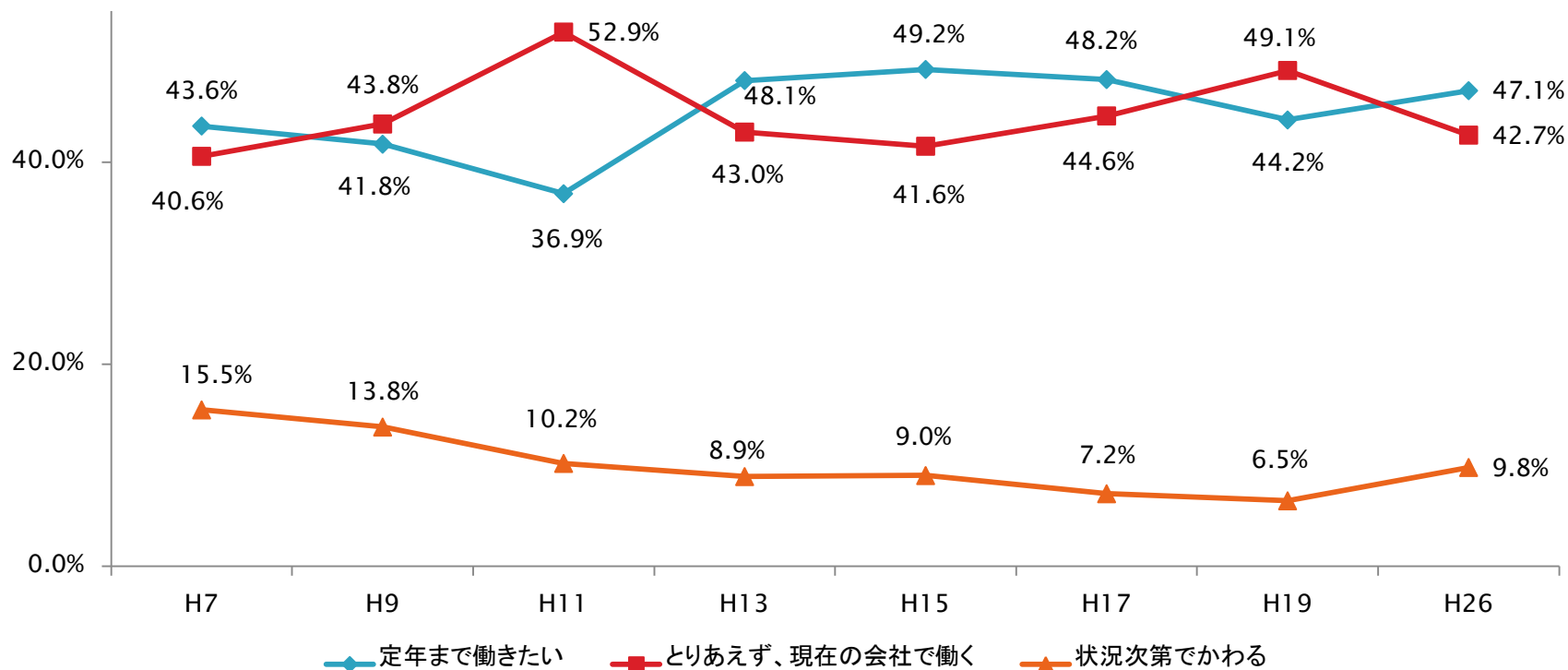


【参考】会社への帰属意識

【概観】

会社の帰属意識について経年変化でみた場合、「定年まで働きたい」と「とりあえず、現在の会社で働く」の割合が拮抗した状況で推移している。

(図20)「会社への帰属意識」の推移



(注)未回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

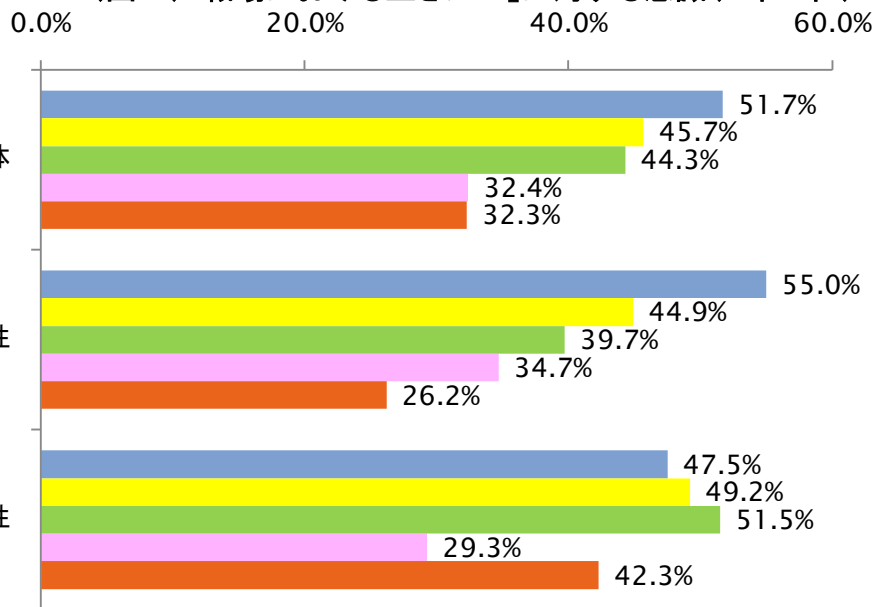
生きがいを感じる時(職場内)

【概観】

Q. 職場において、どのようなときに“生きがい”を感じますか。(上位3つまでお選び下さい)

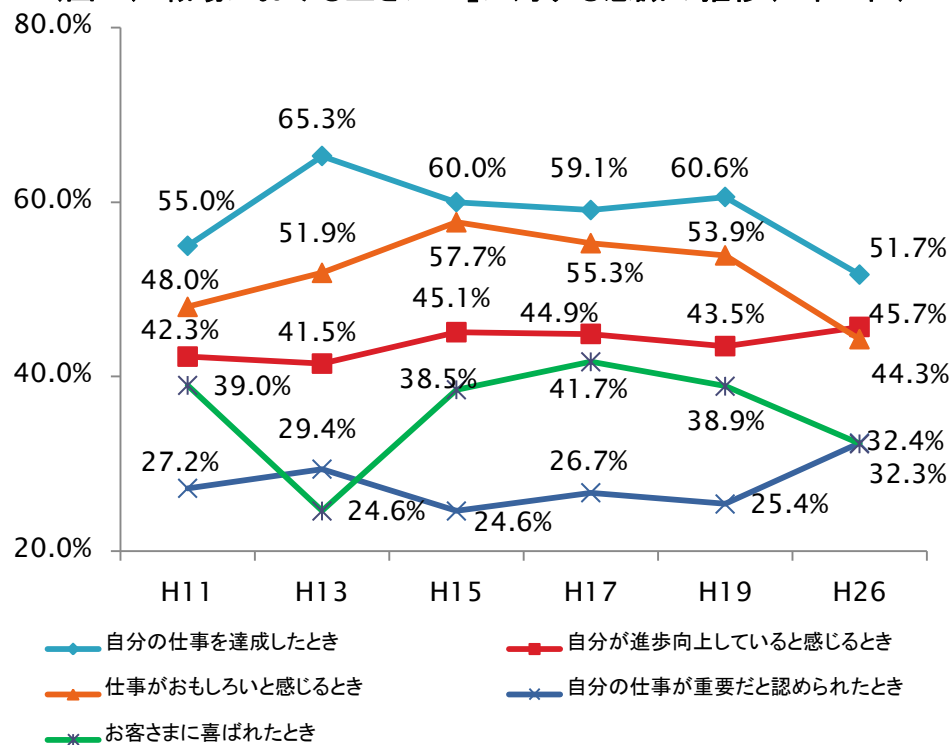
全体でみた場合は、「自分の仕事を達成したとき(約52%)」を筆頭に、自分に割り当てられた業務に対する自信と誇りを自覚し、積極性が芽生えたときに、やりがいや喜びを感じる傾向がうかがえる。また、経年変化でみた場合、「自分の仕事が重要だと認められたとき」の割合が前回調査から7ポイント上昇するなど、増加傾向にある。

(図21)「職場における生きがい」に対する意識(上位5位)



- 自分の仕事を達成したとき
- 自分が進歩向上していると感じるとき
- 仕事がおもしろいと感じるとき
- 自分の仕事が重要だと認められたとき
- お客さまに喜ばれたとき

(図22)「職場における生きがい」に対する意識の推移(上位5位)



- 自分の仕事を達成したとき
- 自分が進歩向上していると感じるとき
- 仕事がおもしろいと感じるとき
- 自分の仕事が重要だと認められたとき
- お客さまに喜ばれたとき

生きがいを感じる時(職場外)

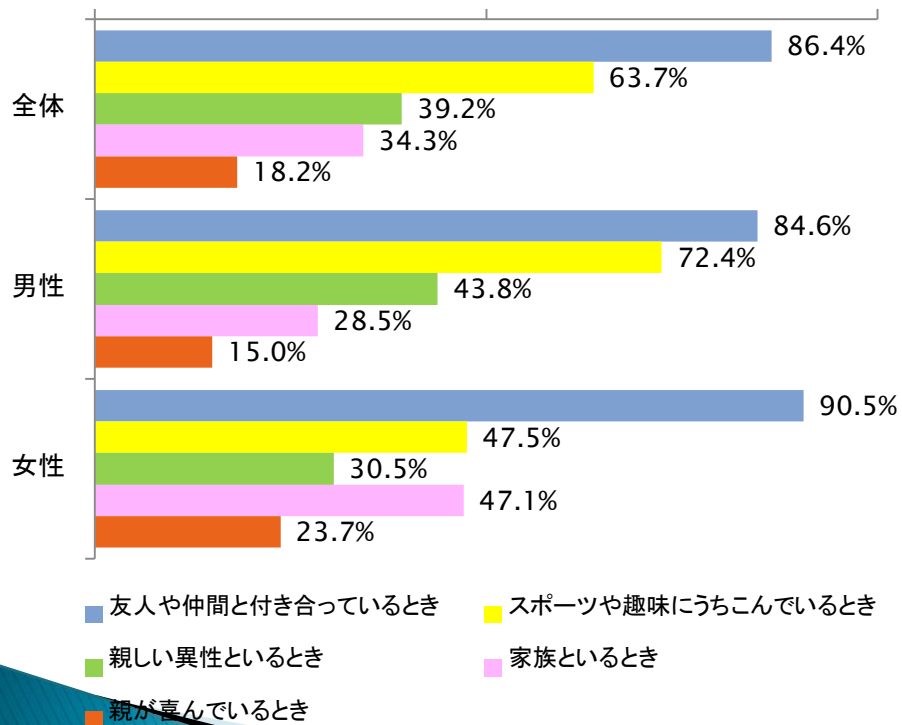
【概観】

Q. 職場以外では、どのようなときに“生きがい”を感じますか。(上位3つまでお選び下さい)

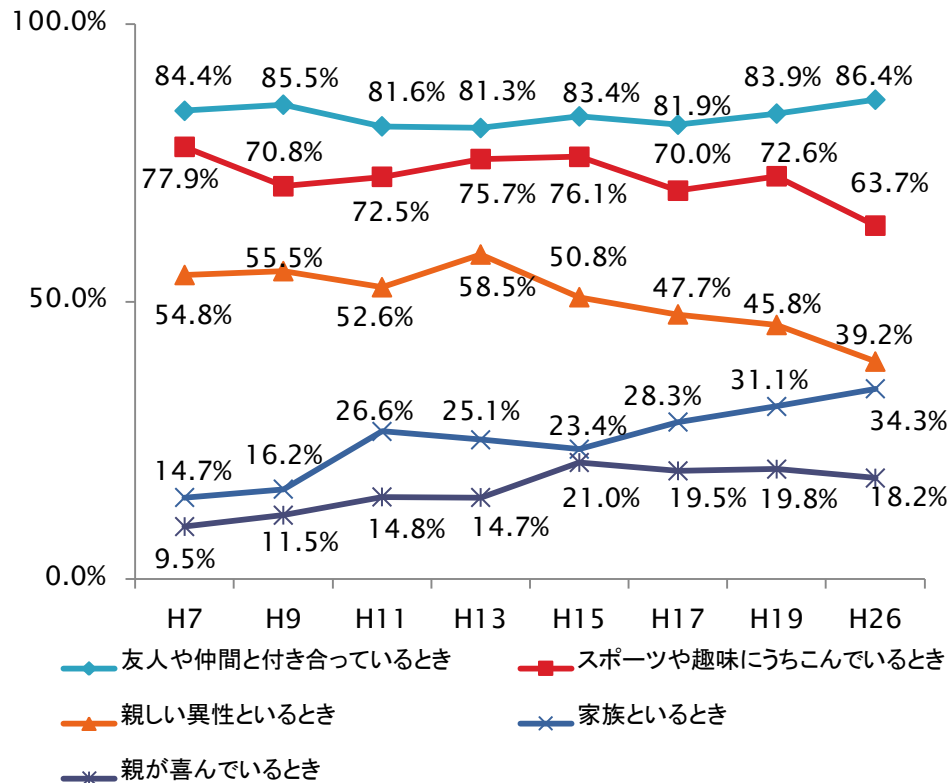
全体でみた場合は、「友人や仲間と付き合っているとき(86.4%)」と「スポーツや趣味にうちこんでいるとき(63.7%)」の割合が高く、性別比較でも同様の傾向がうかがえる。また、経年変化では、「友人や仲間と付き合っているとき」はほぼ横這いで推移しているのに対して、増加傾向にある「家族といるとき」以外は低下傾向にある。

(図23)「職場以外における生きがい」に対する意識(上位5位)

0.0% 50.0% 100.0%



(図24)「職場以外における生きがい」に対する意識の推移(上位5位)



就労意識

【概観】

13の質問に対して「そう思う」から「そう思わない」の4段階で質問したところ、肯定的回答(「そう思う」と「ややそう思う」の合計)の比率は以下のとおりであり、「人や社会から感謝される仕事がしたい」が第1位となった。

また、総じてポジティブないし積極的な態度が上位、ネガティブないし消極的な態度が下位を占める傾向にあるが、「仕事をしていくうえで、人間関係に不安を感じる」割合が過半数を占めており、職場の人間関係が新入社員の大きな関心事であることがうかがえる。

(表2) 就労意識のランキング

順位	質問内容	割合
第1位	(13) 人や社会から感謝される仕事がしたい。	95.8%
第2位	(7) 仕事を通じて人間関係を広げたい。	94.7%
第3位	(3) どこでも通用する専門技術・技能等を身につけたい。	89.0%
第4位	(9) 高い役職につくためには、少々の苦労はしても頑張る。	86.2%
第5位	(1) 仕事を生きがいとしたい。	80.2%
第6位	(12) 終身雇用でないから、会社には甘えることはできない。	72.2%
第7位	(6) 仕事をしていくうえで、人間関係に不安を感じる。	52.9%
第8位	(2) 面白い仕事ならば、収入が少なくても構わない。	50.7%
第9位	(8) 仕事はお金を稼ぐ手段であり、面白いものでない。	36.8%
第10位	(4) 将来、リストラされるのではないかと不安だ。	35.0%
第11位	(11) 職場の上司、同僚が残業していても、自分の仕事が終われば帰る。	30.3%
第12位	(5) 将来、会社が倒産・破綻するのではないかと心配だ。	16.3%
第13位	(10) 職場の同僚、上司等とは勤務時間外つきあいたくない。	15.8%

(注1) 各割合は肯定的回答(「そう思う」と「ややそう思う」の合計値)を示す。

(注2) 質問内容の冒頭にある()内の番号は、質問番号を表す。

上司との関係

【概観】

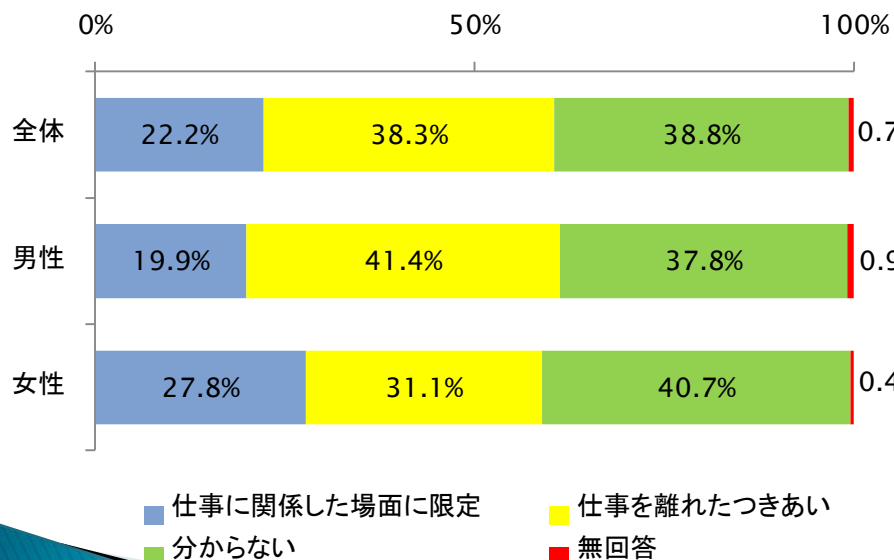
Q. あなたと上司の関係について、どのように考えますか。(1つだけお選び下さい)

「仕事に関する場面に限定」は全体の2割程度に過ぎず、「仕事を離れたつきあい」と「分からない」がそれぞれ約4割程度となっている。なお、女性は「仕事に関する場面に限定」の割合が男性よりも多く、公私を明確に区分している。

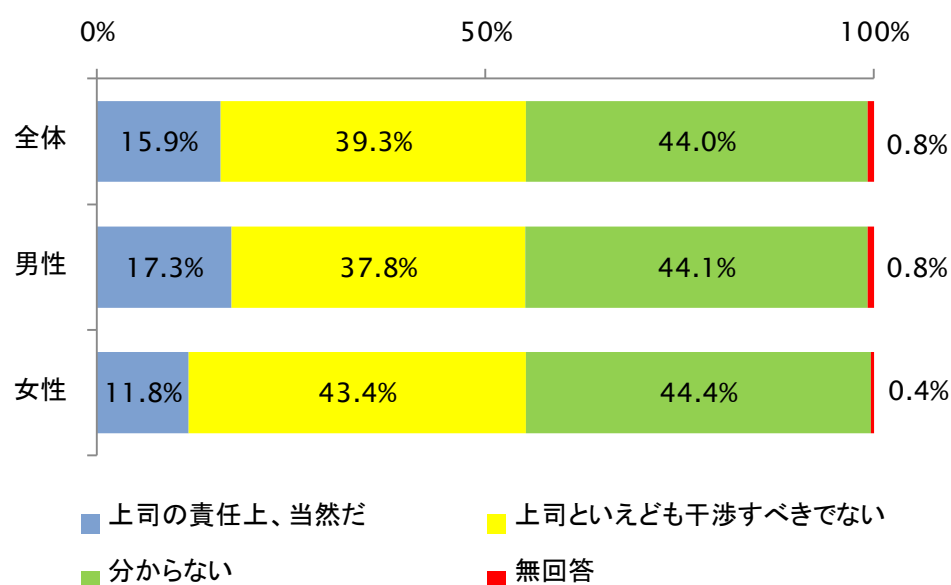
Q. 上司が、あなたの私生活に干渉することについて、どのように考えますか。(1つだけお選び下さい)

男性と女性共に「分からない」が4割強を占めている。なお、「上司といえども干渉すべきではない」が「上司の責任上、当然だ」を上回っており、男女ともに仕事と私生活は別と考えている様子が見える。

(図26)「上司との関係」に対する意識(全体)



(図27)「私生活への干渉」に対する意識(全体)



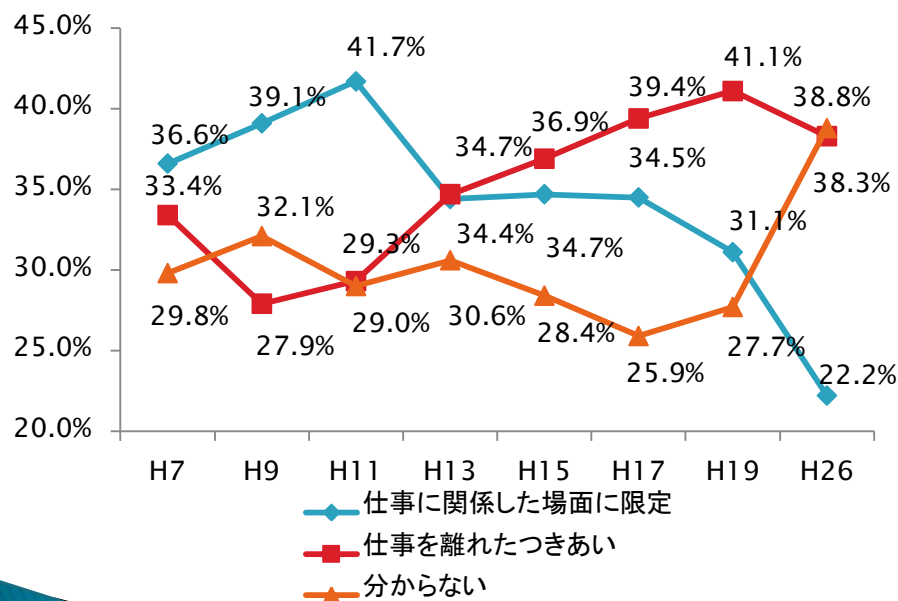
【参考】上司との関係

【概観】

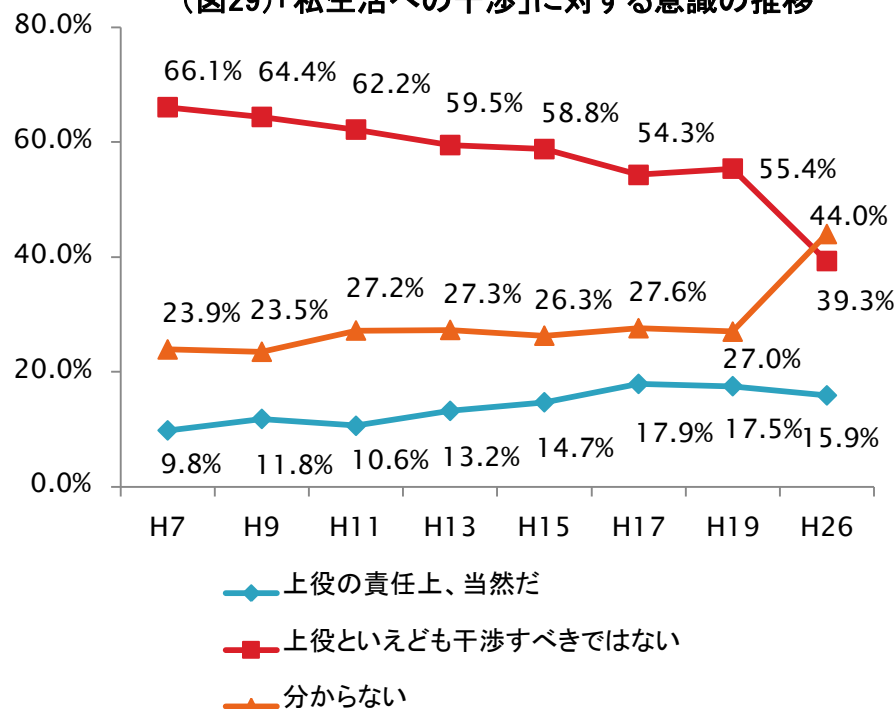
「上司との関係」を経年変化でみた場合、前回調査から「分からない」の割合が10.6ポイント上昇しており、組織における上司との具体的な関係をイメージできない状況が垣間見える一方、「仕事に限定した関係」は減少傾向にある。

また、「私生活への干渉」について経年変化でみた場合、これまで公私の区別が明確に現れた結果となっていたが、前回調査と比べて「上司といえども干渉すべきではない」が16.1ポイント低下したのに対して、「分からない」が17ポイント上昇するなど、初めて順位が逆転しており、上司との「仕事を離れたつきあい」を模索しつつも、一方で仕事以外のつきあいについても、必ずしも否定的ではない意識がうかがえる。

(図28)「上司との関係」に対する意識の推移



(図29)「私生活への干渉」に対する意識の推移



(注) 未回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

仕事や職場での悩みごと相談

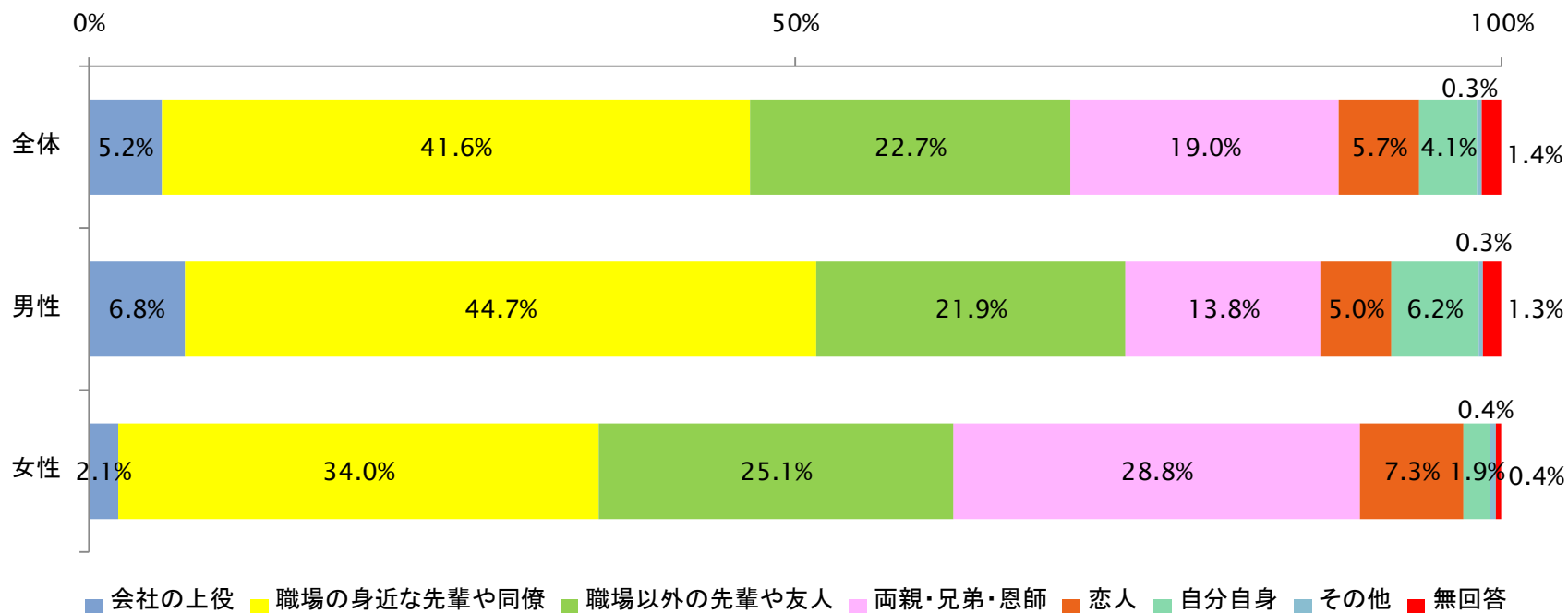
【概観】

Q. 仕事や職場のなかの悩みや不満がある場合、だれに相談しますか。(1つだけお選び下さい)

全体では、「身近な先輩や同僚」が41.6%と最も高く、次いで「職場以外の先輩や友人」(22.7%)、「両親・兄弟・恩師」(19%)となっており、調査開始以降、この傾向は変わっていない。

また、性別比較も基本的に同じ傾向となっているが、女性は「両親・兄弟・恩師」の割合が比較的高くなっている。

(図30)「仕事や職場での悩みごと相談」に対する意識(全体)

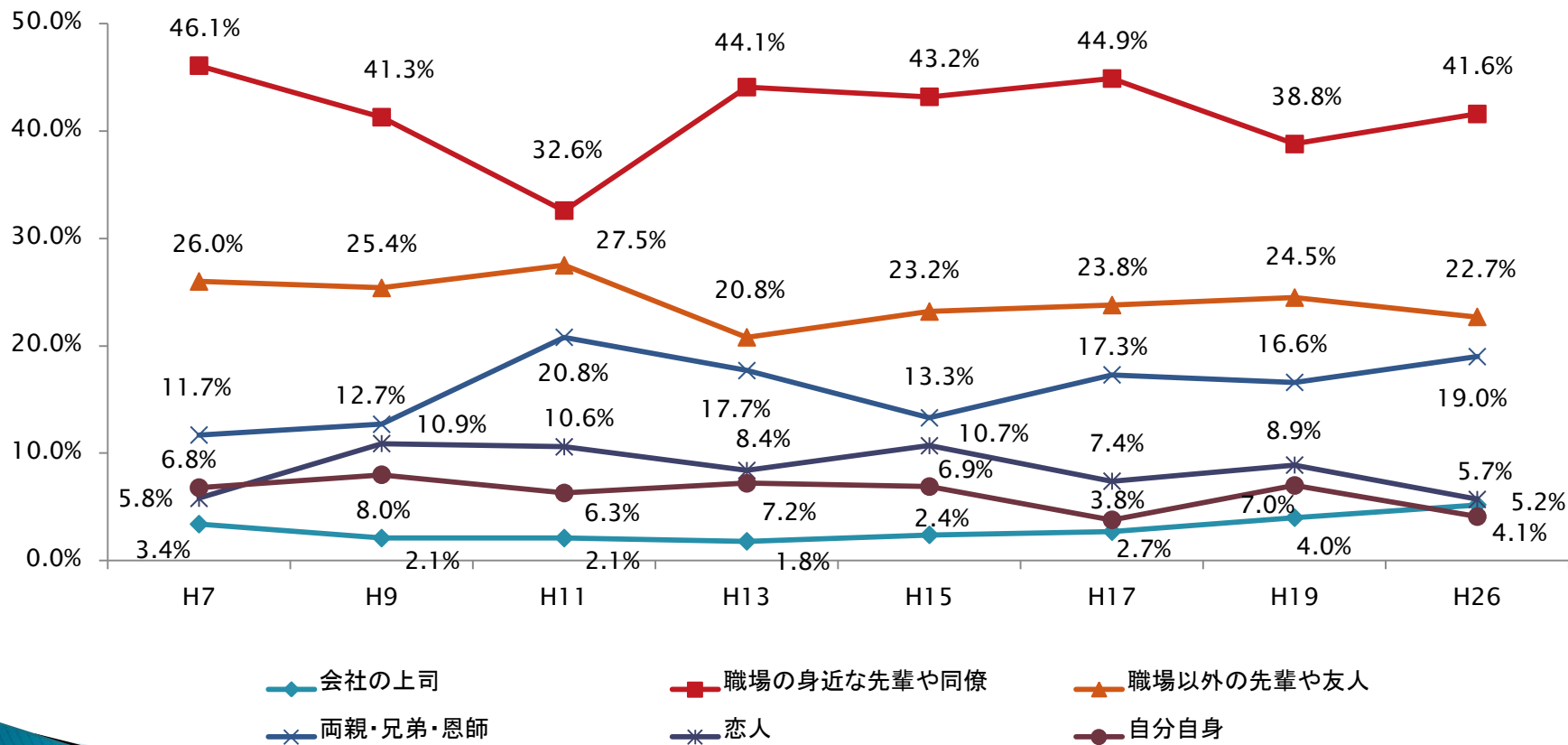


【参考】仕事や職場での悩み事相談

【概観】

「仕事や職場の悩み・不満を相談する相手」について経年変化でみた場合、データの増減はあるものの、「身近な先輩や同僚」を筆頭に、どの項目もほぼ横這いで推移している。

(図31)「仕事や職場での悩みごと相談」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

残業について

【概観】

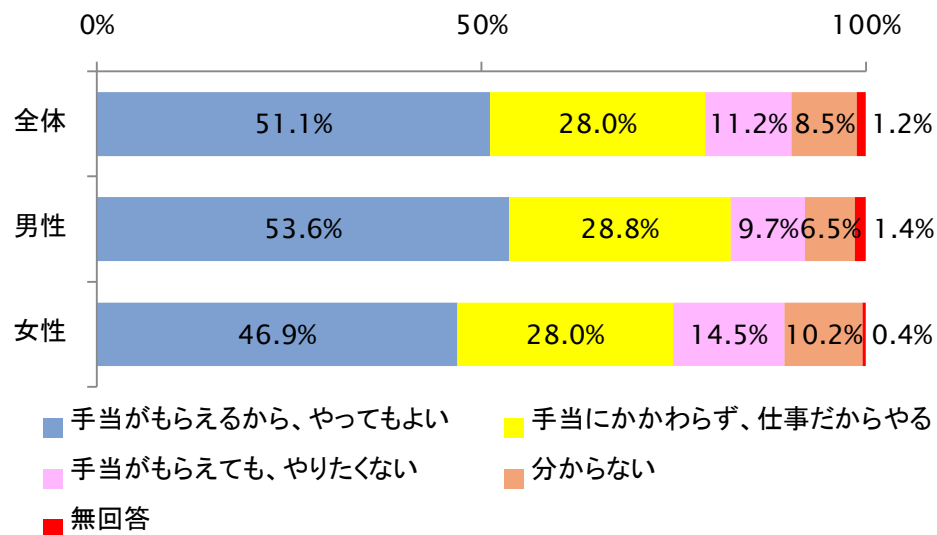
Q. 残業や休日出勤等について、どのように考えますか。(1つだけお選び下さい)

「手当がもらえるなら、やってもよい」が51.1%と最も高いが、「手当にかかわらず、仕事だからやる」という意識は前回調査に引き続き低下傾向にあり、約10年前の17年調査から17.2ポイント低下している。

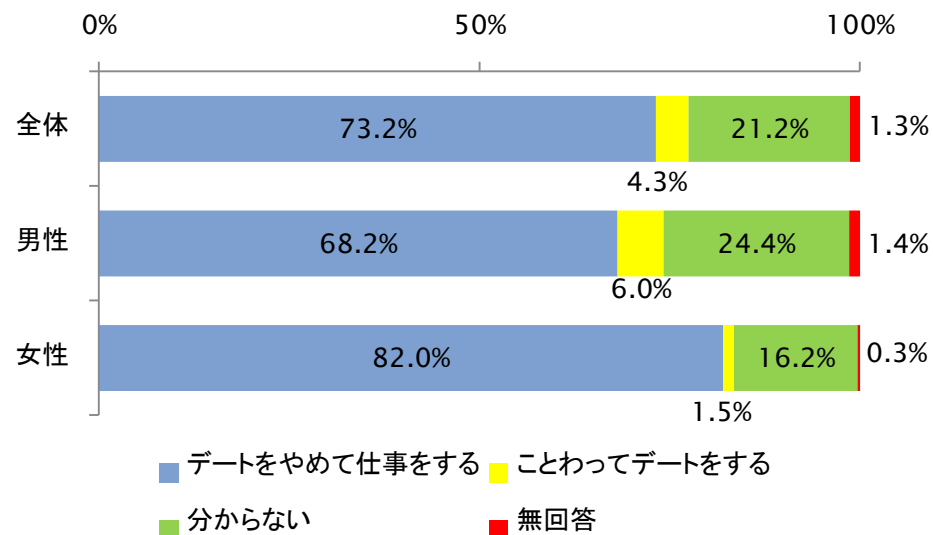
Q. デートの約束があったとき、残業を命じられたらあなたはどのようにしますか。(1つだけお選び下さい)

全体の7割弱が「デートをあきらめて仕事をする」と回答しており、その傾向は男性よりも女性が強い。

(図32)「残業や休日出勤等」に対する意識(全体)



(図33)「デートか残業か」に対する意識(全体)



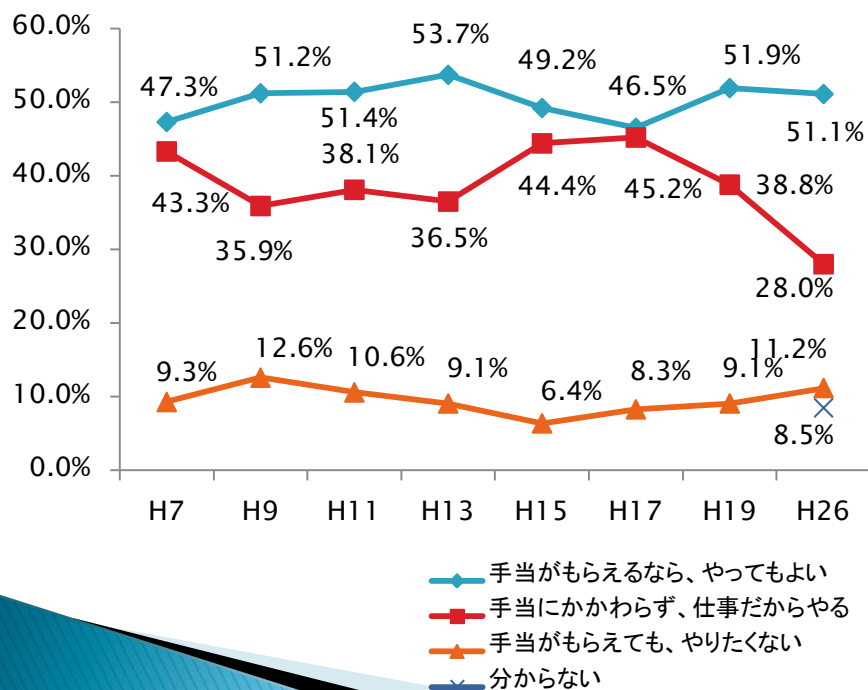
【参考】残業について(経年変化)

【概観】

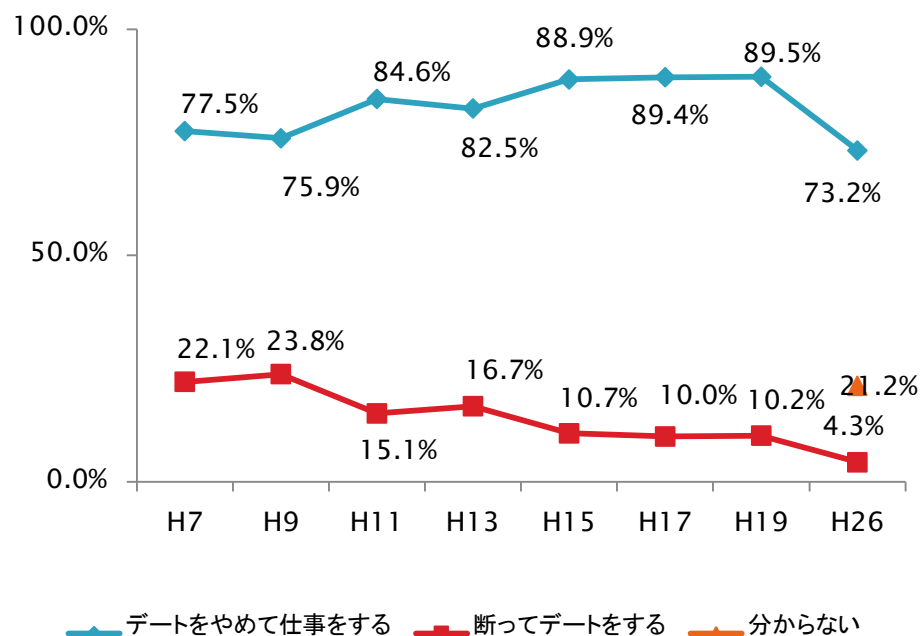
「残業に対する考え方」を経年変化でみた場合、「手当がもらえるなら、やってもよい」と「手当がもらえても、やりたくない」は、ほぼ横ばいで推移している。また、今回調査から選択肢に「分からない(8.5%)」を加えた影響もあるが、「手当にかかわらず、仕事だからやる」という意識は、近年、低下傾向にある。

一方、「デートか残業か」に対する考え方は、今回調査から選択肢に「分からない(21.2%)」を加えた影響もあるが、依然として「デートをやめて仕事をする」傾向が強い。

(図34)「残業や休日出勤等」に対する意識の推移



(図35)「デートか残業か」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

余暇と仕事の関係

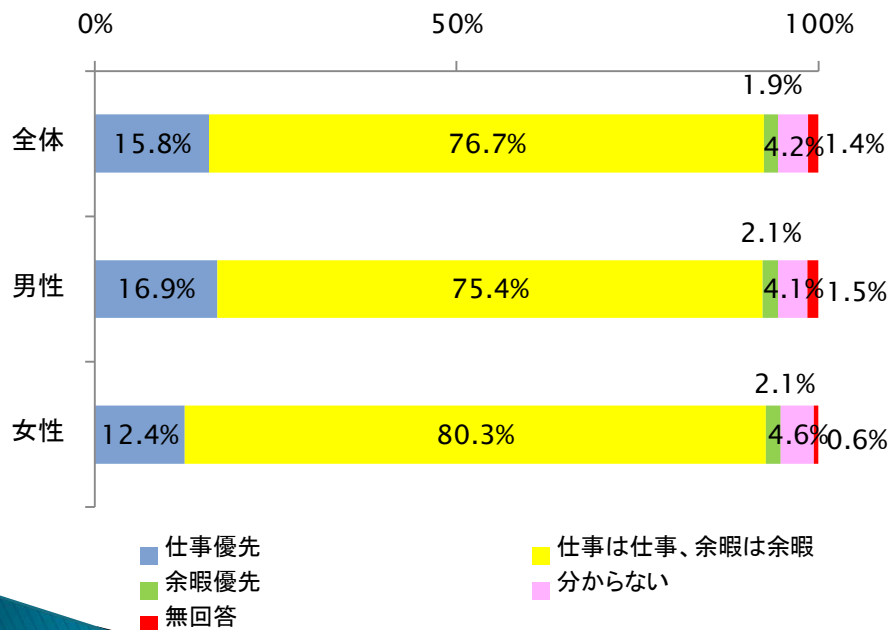
【概観】

Q. 余暇と仕事の関係について、あなたはどのように思いますか。(1つだけお選び下さい)

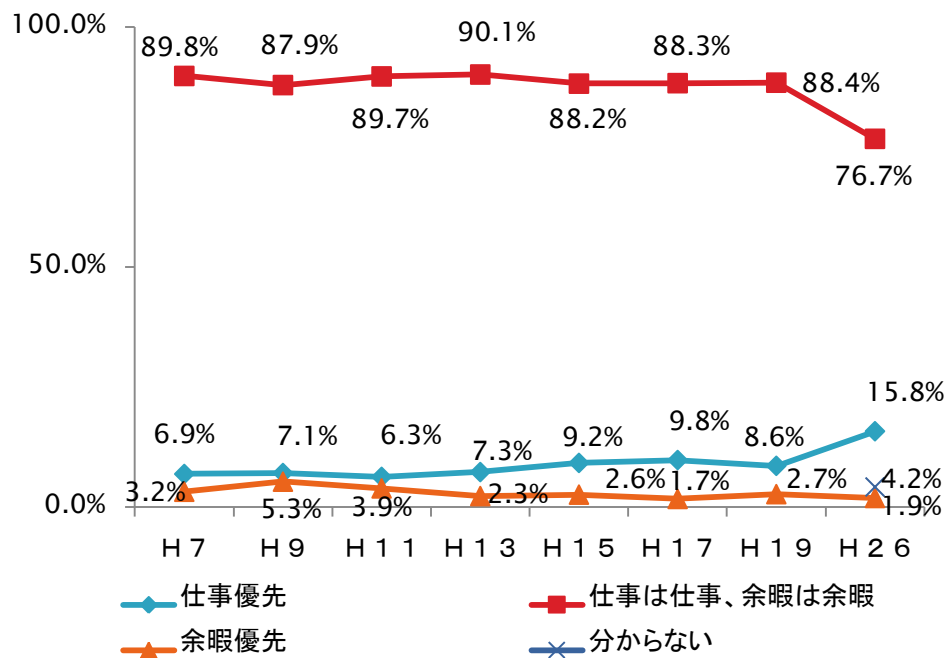
「仕事余暇の関係」については、「仕事は仕事、余暇は余暇」と切り分けた考え方が7割強と圧倒的に多く、その傾向は基本的に男性も女性も同様であるが、女性の方がやや多くなっている。

また、経年変化でみた場合、「仕事は仕事、余暇は余暇」とする考え方は、これまで8割強の高い水準で推移してきたが、今回調査から選択肢に加えた「分からない(4.2%)」を加えたほか、前回調査に比べて「仕事優先」の考え方が倍増した影響もあり、7割強に後退している。

(図36)「余暇と仕事の関係」に対する意識(全体)



(図37)「余暇と仕事の関係」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

育児・介護休業制度

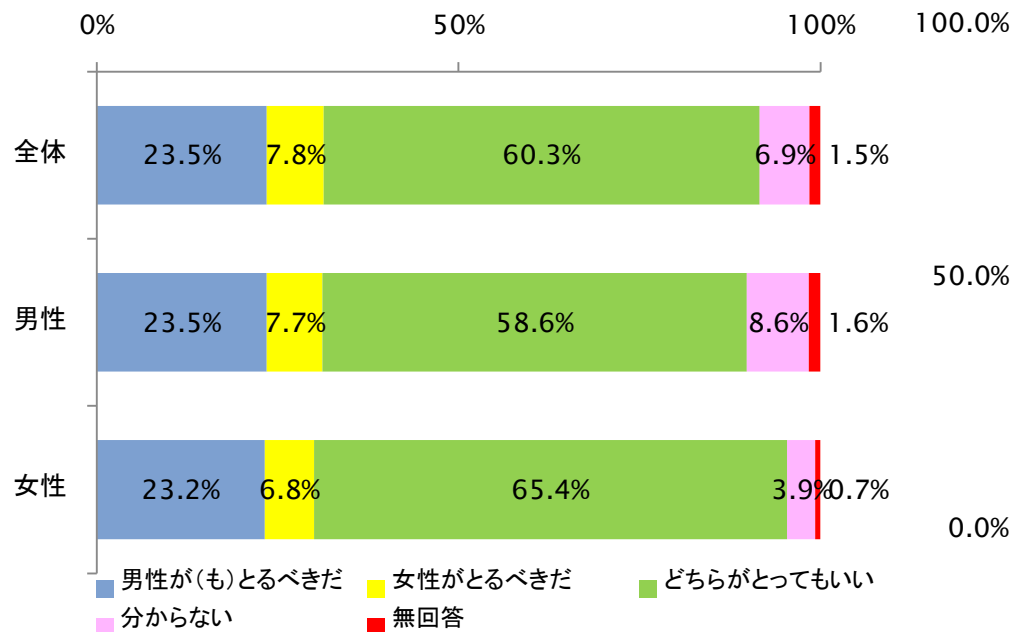
【概観】

Q. 育児・介護休業制度について、あなたはどのように思いますか。(1つだけお選び下さい)

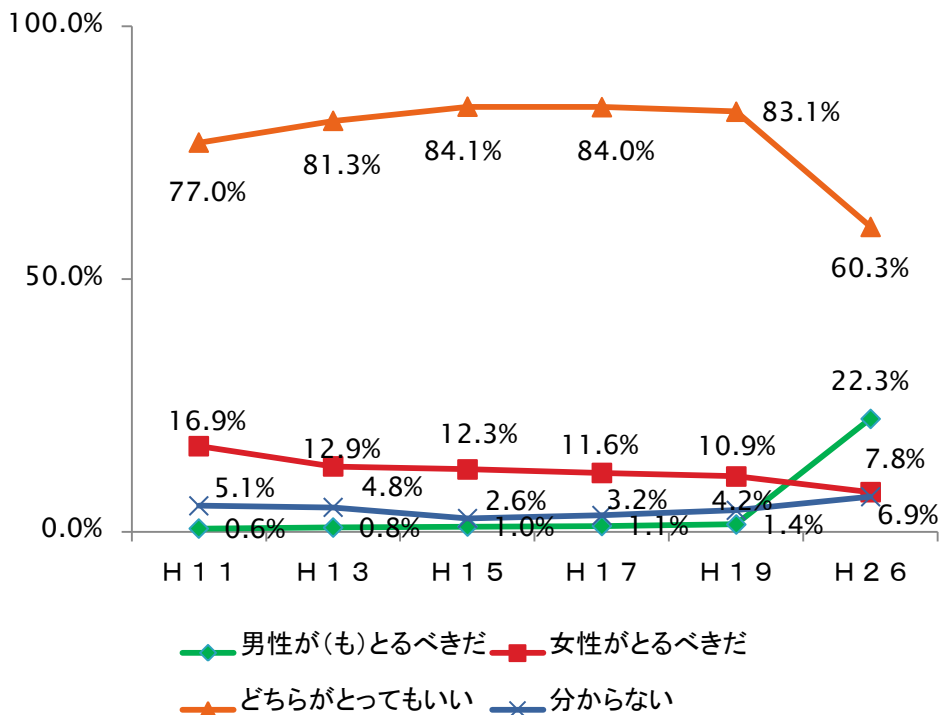
全体では、「どちらがとってもいい」が約6割を占めており、その傾向は性別比較でも基本的に同じである。

他方、経年変化でみた場合、これまで「どちらがとってもいい」が8割強前後で推移してきたが、前回調査に比べて22.8ポイント低下したのに対して、「男性が(も)とるべきだ」が21ポイント増加するなど、男女共に育児・介護への男性参加に対する意識の変化がうかがえる。

(図38)「育児・介護休業制度」に対する意識(全体)



(図39)「育児・介護休業制度」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

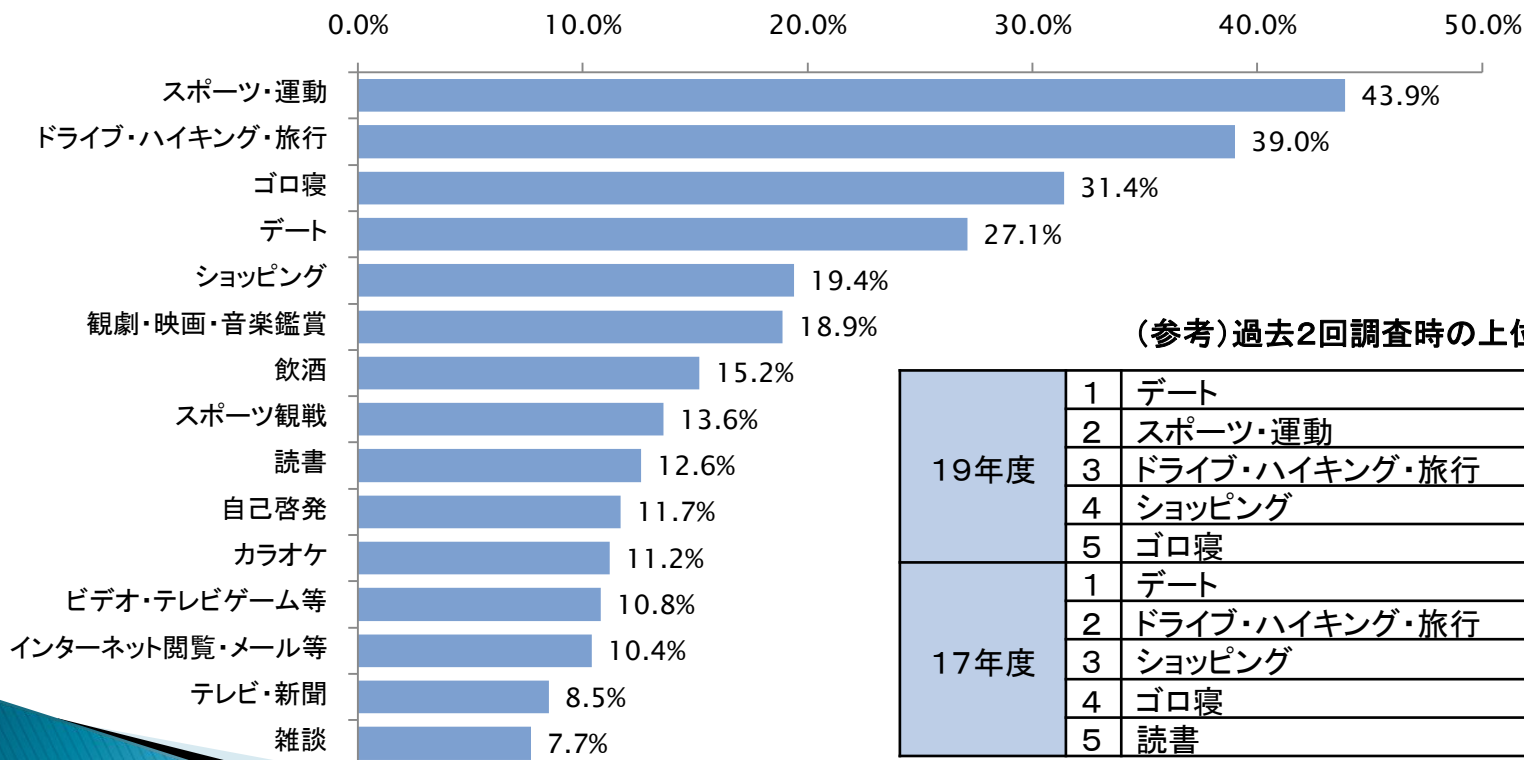
余暇で行いたいもの

【概観】

Q. 余暇で行いたいことは何ですか。(上位3つまでお選びください)

これまで上位の定番であった「デート」や「ドライブ」・ハイキング・旅行」を抑え、調査開始以降、初めて「スポーツ・運動(散歩含む)」が第1位となった。次いで「ドライブ・ハイキング・旅行(39%)」、「ゴロ寝(31.4%)」、「デート(27.1%)」、「ショッピング(19.4%)」の順番となっている。

(図40)「余暇で行いたいこと」に対する意識(全体:複数回答)



(参考)過去2回調査時の上位5傑

調査年度	順位	余暇で行いたいこと	意識率
19年度	1	デート	43.5%
	2	スポーツ・運動	42.4%
	3	ドライブ・ハイキング・旅行	41.1%
	4	ショッピング	33.1%
	5	ゴロ寝	29.0%
17年度	1	デート	43.5%
	2	ドライブ・ハイキング・旅行	41.1%
	3	ショッピング	33.1%
	4	ゴロ寝	29.0%
	5	読書	17.3%

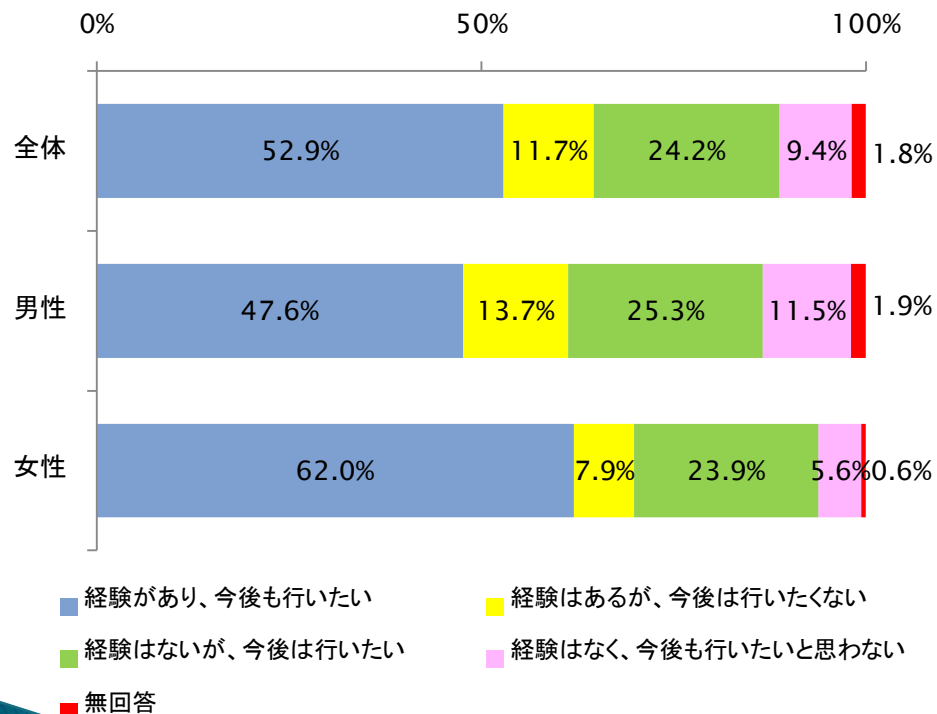
ボランティア経験の有無

【概観】

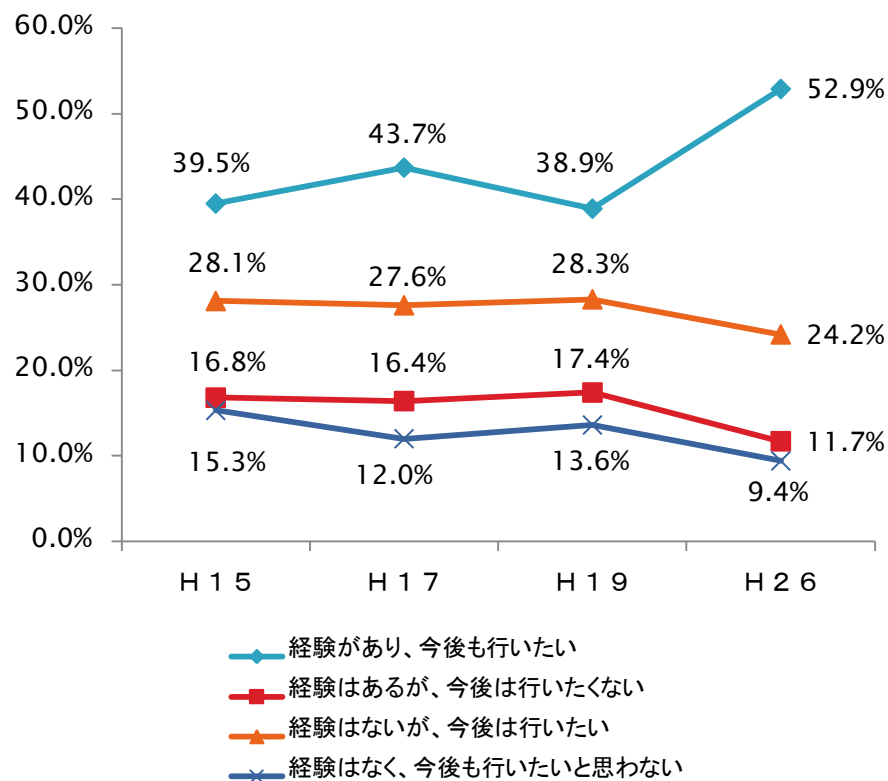
Q. ボランティア活動をした経験がありますか。また、今後経験してみたいと思いますか。(1つだけお選び下さい)

全体としては、「経験があり、今後も行いたい」が5割を超えているほか、「経験はないが、今後は行いたい」と前向きな姿勢の割合も2割強となっている。こうした傾向は、性別に関係なく基本的に同じであるが、経験者の割合は女性の方が多い。また、経年変化でみた場合、ボランティア活動参加経験の割合も高まっている。

(図41)「ボランティア活動」に対する意識(全体)



(図42)「ボランティア活動」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

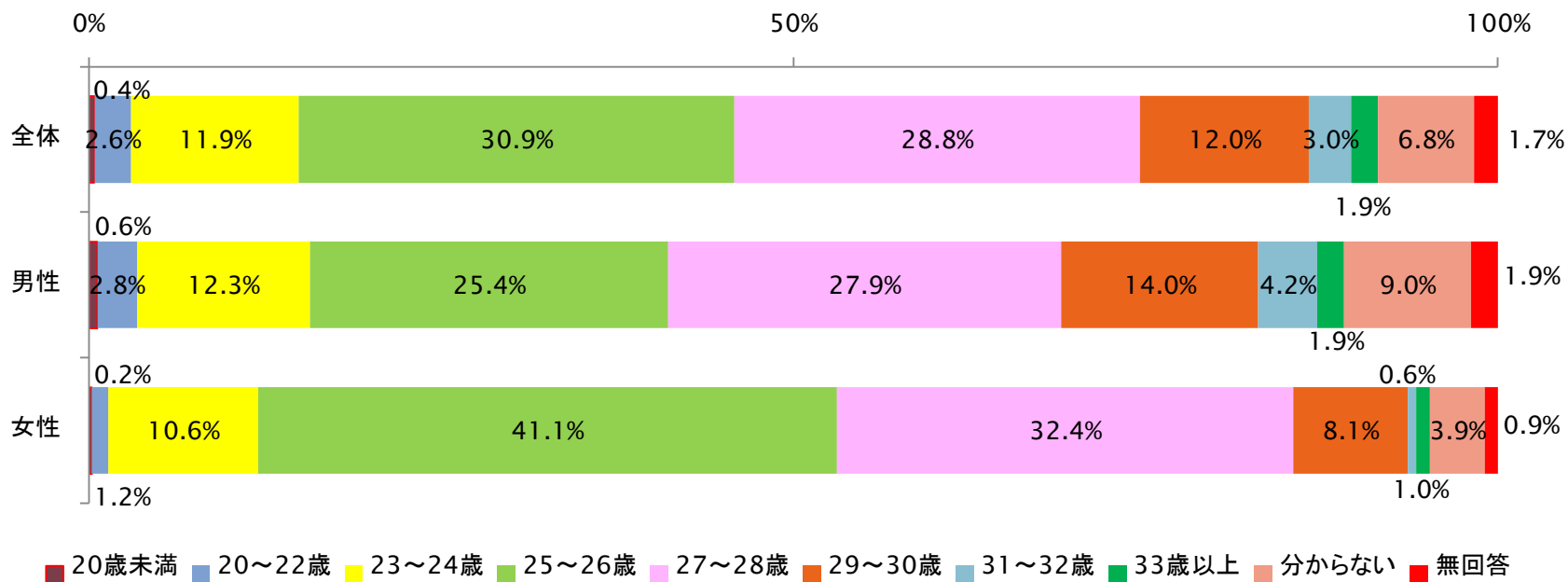
結婚したい年齢

【概観】

Q. あなたは、何歳ぐらいで結婚したいと思いますか。(1つだけお選び下さい)

全体としては、「25～26歳(約31%)」が最も多く、「27～28歳(約29%)」を合わせた割合が全体の6割を占めるなど、20代のうちに家庭生活の基盤を固めたいと考えている新入社員が大半を占めている。

(図43)「結婚したい年齢」に対する意識(全体)



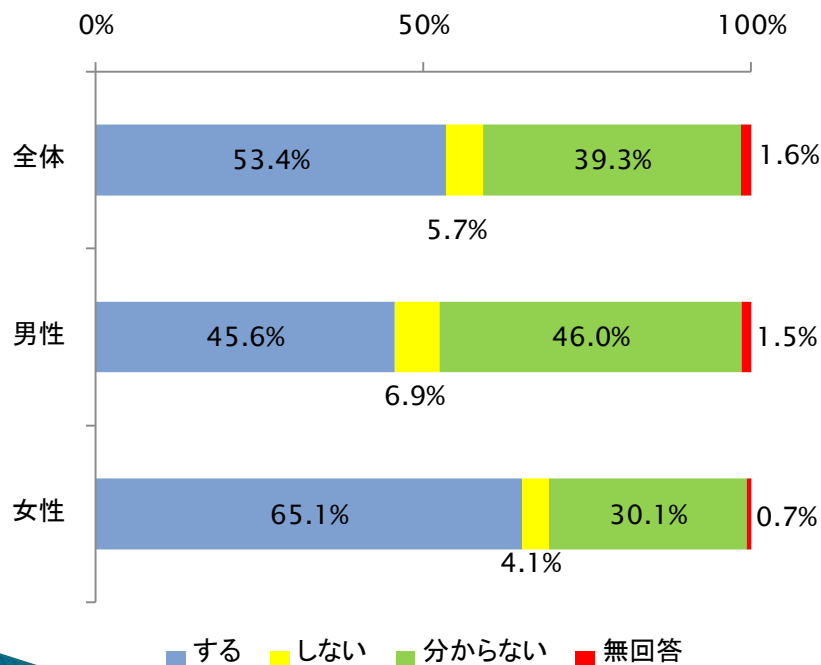
共働きに対する考え方

【概観】

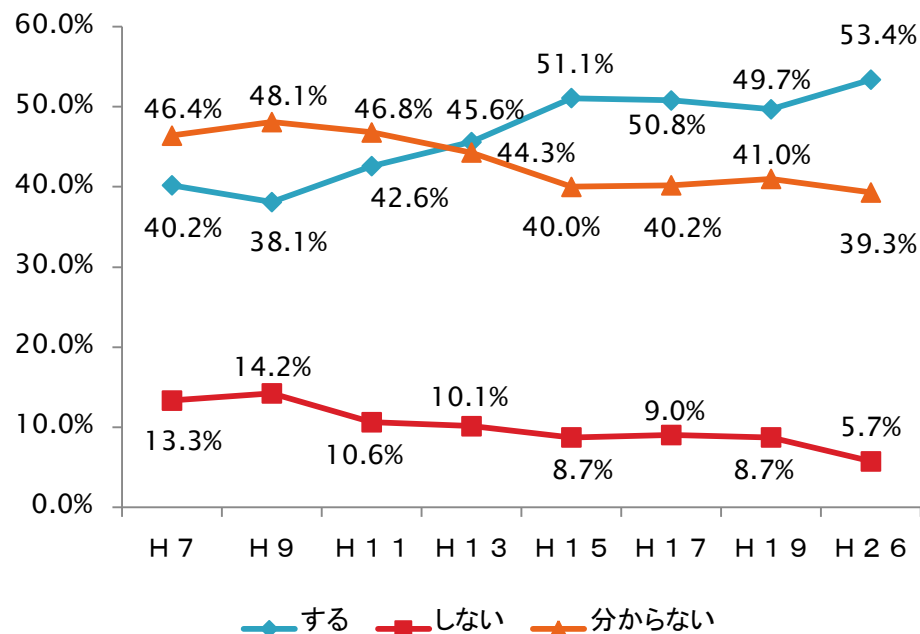
Q. あなたは、結婚する際に共働きをするつもりですか。(1つだけお選び下さい)

「全体としては、「共働き」をする割合が5割強となっており、「下働きしない」割合を大きく上回っている。この傾向は、性別に関係なく基本的に同じであるが、女性の方が意識が高い。また、全体の4割弱が「分からない」と回答している。なお、経年変化でみた場合、「共働きする」割合は増加傾向にある。

(図44)「共働き」に対する意識(全体)



(図45)「共働き」に対する意識の推移



(注)無回答などの割合を省略しているため、合計が100%にはならない。

結婚観

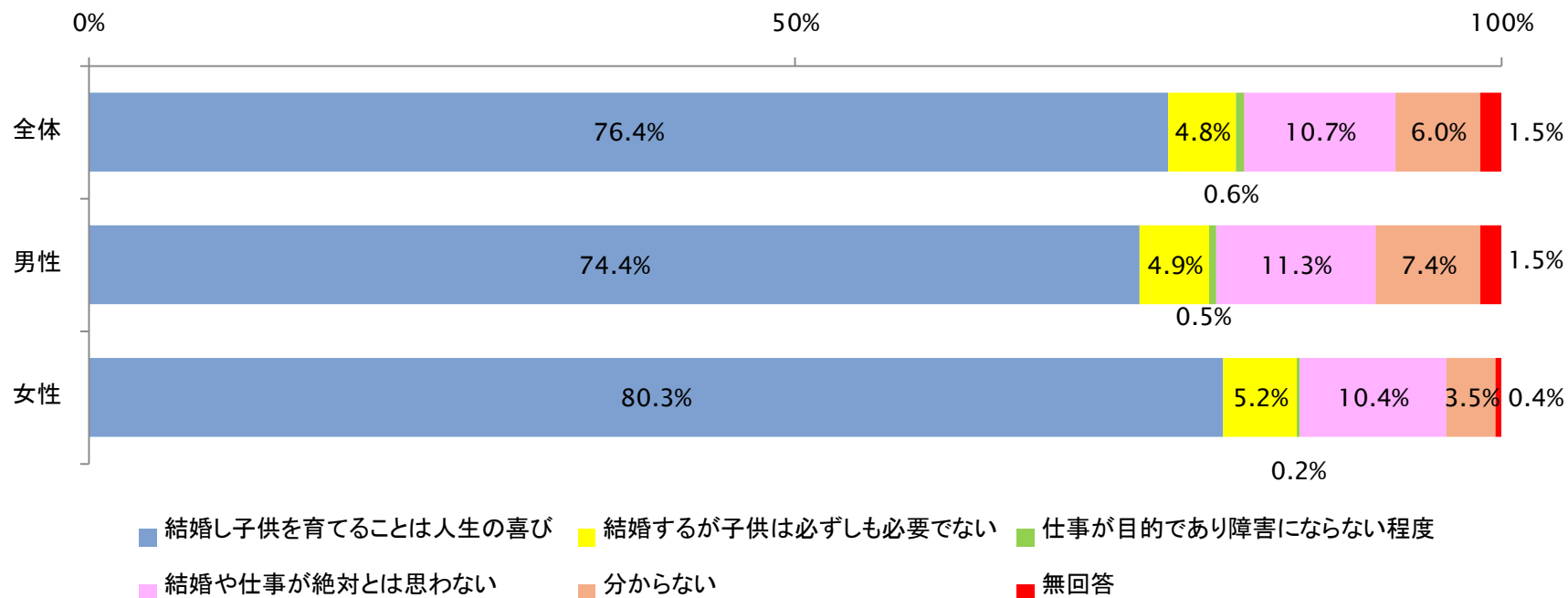
【概観】

Q. 結婚について、あなたはどのように思いますか。(1つだけお選び下さい)

全体的には、「結婚し、子供を育てることは人生の喜び」と回答した割合が7割強と最も多く、この傾向は性別に関係なく、基本的に同じである。

また、人生観や結婚観等に対する考え方や価値観の多様化も進むなか、「結婚や仕事が絶対とは思わない」割合も性別に関係なく約1割程度ある。

(図46)「結婚観」に対する意識(全体)



職場生活への不安

【概観】

Q. 新しい職場生活に関して不安があるとしたら、どのようなことですか。(1つだけお選び下さい)

全体としては、「仕事がうまくやれるだろうか」が5割強と最も多く、次いで「職場の仲間達とうまくやれるだろうか(約22%)」、「職場の上司とうまくやれるだろうか(約13%)」の順となっており、学生から社会人へと立場が変わる中で、仕事や人間関係への不安の大きさがうかがえる。

(図47)「職場生活への不安」に対する意識(全体)

